

名古屋学芸大学 地域連携推進研究機構年報

第1号
2020年3月

第1号
2020年3月

目 次

年報の発刊にあたり	名古屋学芸大学学長 杉浦 康夫	1
年報創刊号発刊にあたり	地域連携推進研究機構長 岸本 満	3

I. 地域連携推進研究機構

1. 機構の発足	5
2. 運営委員会	6
3. ワーキンググループ	7
4. 連携活動	
(1) 名古屋医師会医療介護総合研究センターとの連携協定の締結 (2019年10月16日)	7
(2) 医療法人大医会との連携プロジェクト会議の開催 (2019年10月19日)	7
5. その他	
(1) 私立大学等改革総合支援事業(タイプ3)	8
(2) 地域連携活動のデータベース構築	8
(3) 後援等名義の使用許可に関する要項の制定	8

II. サービスラーニング(SL)センター

1. 年譜	10
2. SLセンターの目的	12
3. 学生のSL登録・参加概要	
(1) SL登録状況	12
(2) SL参加状況	14
4. ボランティア要請及び派遣件数	15
5. ボランティア派遣実績	17
6. SL参加学生の体験報告(抜粋)	20
7. 主催講習会	27
8. 復興支援活動	
(1) 復興・創生インターン	29
(2) 学べる被災地での地域コミュニティづくり	30
(3) みなみそうまSL	31
(4) 復興支援活動報告会	33
9. 講演会	35

Ⅲ. 2019 年度の地域連携活動データ	
1. 活動件数	37
2. 活動一覧	38
Ⅳ. 資料	
1. 名古屋学芸大学地域連携推進研究機構規程	55
2. 連携協定一覧	57
3. 2019 年度地域連携推進研究機構運営委員会委員名簿	58
4. 2019 年度地域連携推進研究機構運営委員会部会 (ワーキンググループ)名簿	59
5. SL センター報告会用パネル、新聞等の掲載記事、活動記録写真	60

地域連携推進研究機構年報の発刊にあたり

2016年7月、故井形昭弘前学長の発案で「地域と大学」をテーマにした教育シンポジウムの開催が検討されました。それまで、学内にあるサービスラーニングセンター、産官学協同研究センター、子どもケアセンターを中心に、地域と連携して様々な活動があることは知ってはいましたが、どのくらいの地域で活動が行われているか実態がわからず、シンポジウムを組むまでに至りませんでした。

2017年4月に、管理栄養学部の岸本満教授に地域連携担当の学長補佐となっただき、3学部にまたがるワーキンググループを作り、学芸大学の中で取り組まれている地域連携に関する活動すべてを洗い出してもらいました。その結果、すべての学部のあらゆる領域にわたり、363件の活動が地域と関連を持ちながら行われていました。2017年度教育シンポジウムは懸案であった「地域連携」を取り上げ、「地域とともに生きる大学～NUAS だからこそできること～」というメインテーマを掲げました。まずは、新しい地域連携活動を創造し提案するよりも、今までの活動を整理し、学内の教職員に学部を越えて伝え、知ってもらうことが地域連携を進める第一歩であるとの認識で一致しました。とりわけ、教育という学生参加のプロセスの中に地域連携をいかに落とし込むかを重点とし、学内の3センターの活動内容を本学の地域連携教育における取り組みの代表例として、教職員へ報告してもらいました。

当時、二つの問題がありました。一つは2018年問題という18歳人口の減少問題です。200万人を超えていた18歳人口が今や120万人を切るという話です。まもなく100万人を切ると生産人口が減少し経済が悪くなる。その結果、大学の入学者数、学生数が1学年で約800人を境界として、それ以下では経営は厳しくなると言われていました。

そのような状況では大学は何を売りにするかです。ただ地域に貢献したということだけではなく、地域連携を行うことが大学の教育の中で活かされなければなりません。

2019年4月、岸本満副学長を機構長とし「地域連携推進研究機構」を発足させ、学内の地域連携活動を統一的に発展させることをお願いしました。あまりに多岐にわたる活動はその歴史的内容も含み統合は簡単ではありませんが、少しずつ教職員の中に共同研究や共同作業が生まれ始めました。その結果、学内のワンストップ、地域の中でのワンストップ体制の重要性が言われ始め、地域連携活動は一步一步前進しています。



名古屋学芸大学学長
杉浦 康夫

このたび、これまでの実績を集約した地域連携推進研究機構年報第 1 号を発刊できることは大変有意義なことであります。

私たちが研究や教育で、何かを調べるときに、皆、教員も学生も、面白いから研究します。研究は面白いから、楽しいから、これを研究しているとわくわくしてくるから活動を深めていくのです。地域連携も同じではないでしょうか。

本学の特色ある教育および学生の意欲を地域へと繋ぐ総合窓口として、本機構を発展させたいと願っています。

名古屋学芸大学学長

杉浦 康夫

年報創刊号発刊にあたり

本学は 2002 年の開学以来、建学の精神「人間教育と実学」のもと「人間の健康な生活」に貢献する人材の教育・養成と研究を行ってまいりました。「管理栄養」「メディア造形」「ヒューマンケア」「看護」の 4 学部は人間の生活と健康について学ぶ学部であり、幅広い年代の生活者に役立つ知識や創作物を提供したり、生活者に寄り添った社会貢献活動をしています。複数の学部が連携・協働するプロジェクトでは、本学の総合力が発揮され、地域課題や生活者の課題を広い視野で多角的な視点から解決しています。地域の自治体や企業と連携し協働する事業が研究やものづくりに発展し、学生は深い学びと人間的な成長をしています

2017 年、本学の「地域連携力」を掘り起こすべく「地域連携 WG(ワーキンググループ)」を組織しました。地域連携活動は4学部の学生、教職員の交流、協働の機会を増やし、研究力、教育力、学生満足度向上につながるという理念を掲げ活動をスタートしました。

まず、地域連携とは、「自治体、学校、医療機関、福祉施設、企業、NPO等組織と連携、協働し、『地域貢献(知の還元)』を行うこと。産官学連携も含む」と定義し概念を共有しました。次に、「地域連携力」を見える化するため学内の地域連携事例を収集、解析しました。その結果、本学の地域連携力は「人間教育と実学」を建学の精神として発展してきた学園の実践、実績の結果であることが明確となり①学生を伸ばし学生満足度を高めていること、②教員の教育、研究、社会貢献活動が活性化されていること、③大学の総合力が活かされていることがわかりました。

同年 12 月地域連携 WG は短期、中期、長期目標を学長に答申、短期目標で示した「地域連携推進研究機構(以下本機構)」は 2019 年 4 月開設されました。本機構は、産官学連携を含めた地域連携の推進に係る基本方針等を検討し、施策を推進することを目的にしています。その業務は 1) 地域連携推進に係る方針の策定、2) 地域連携研究の実施、3) 社会実装の推進及びその支援、4) 学生ボランティア活動の支援(サービスマーケティング(SL)センター業務)、5) 地域連携・地域貢献活動及び関連する教育・研究成果の広報、6) その他全学的な地域連携推進に関することです。

これからも、本機構は健康・栄養研究所、産官学協同研究センター、子どもケアセンター、SL センターそして各研究科、各学部、各学科、各研究室が行う地域連携、社会貢献活動の情報を収集し、それらを「つなぐ」、「むすぶ」、「ひろげる」役割をしてみたいと考えております。

本機構は小さな組織ですがこの年報創刊号の発刊を機に引き続き皆様のご指導ご鞭撻をいただき成長を続けてまいりたいと思います。

地域連携推進研究機構長

岸 本 満

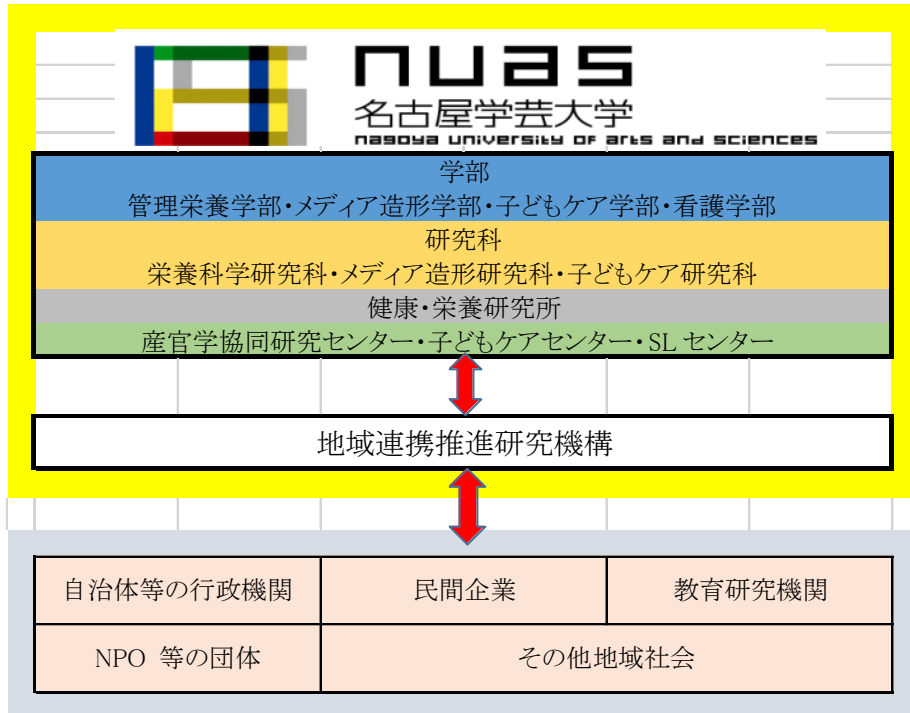
I. 地域連携推進研究機構

1. 機構の発足

地域連携推進研究機構は、本学の地域連携推進の基本方針等を検討し、施策を推進するための全学組織として、2019年4月に設置した。この機構の設置は、本学中期計画(NUAS Next)の三つの将来ビジョンのうちの一つである地域創生、生涯学習などの多岐にわたる課題解決に資する中核的存在:知(知)の拠点として、大学の機能強化を図ることを目的としている。そして、組織としての機構を具体化するきっかけとなったのは、文部科学省の平成30年度私立大学研究ブランディング事業への申請である。このブランディング事業申請の基盤となったのは、2017年の4月に地域連携の学長補佐となった管理栄養学部の岸本満教授の下で、3学部にまたがるワーキンググループが本学の地域連携活動について洗い出したことであった。このワーキングの調査結果によれば、大学にはその当時363件の活動が認められ、これらの実績を用いて発展的な地域連携を目指した研究活動を実現することが、このブランディング事業申請の目的であった。

ブランディング事業には残念ながら採択されなかったが、その事業計画の方向性を保ち、本学における地域連携活動をさらに推進するため、事業申請時に制定した「名古屋学芸大学地域連携推進研究機構規程」に基づいて、2019年4月に岸本副学長を機構長に併任し、新たに課長職を1名採用するとともに、学生の社会貢献を支援するサービスラーニングセンターを包括して、本学における地域連携に関わる全学組織としてスタートすることになった。

全学組織としての機構の役割は、自治体、産業界、教育研究機関、NPO等の団体、その他地域社会と大学・教職員・学生を「つなぐ・むすぶ・ひろげる」ことであり、次の図に示すような大学の地域連携活動の総合窓口となるものである。



2. 運営委員会

地域連携推進研究機構の重要事項を審議するための運営委員会は、隔月で開催しており、2019年度における主な議題は次のとおりである。(委員名簿は巻末に掲載)

第1回

1. 委員会構成員及びサービスラーニングセンター運営委員会との関係について
2. 地域連携推進研究機構の業務及び当面の課題について
3. 地域連携に係る案件の情報共有について
4. 部会の設置について

第2回

1. 地域連携機構の広報について
2. 地域連携活動の情報集約とデータベース化について
3. 日進おりど病院との連携について

第3回

1. 名古屋学芸大学地域連携推進研究機構規程の一部改正について

第4回

1. 東名古屋医師会医療介護総合研究センターとの連携協定について
2. 医療法人大医会(日進おりど病院)との交流行事について
3. 私立大学等改革総合支援事業について

第5回

1. 改革総合支援事業(タイプ3)について
2. 後援等名義の使用許可に関する要項の制定について
3. 2020年度地域連携推進研究機構の予算について

第6回

1. 地域連携推進研究機構年報の発行について

3. ワーキンググループ

地域連携推進研究機構規程第13条に定める運営委員会の「部会」であるワーキンググループは、4学部を繋ぎ、各学部の特色・得意を地域連携活動に反映させることを組織の目標とし、機構と運営委員会から付託された課題について調査、検討し、問題解決策の提案等を行うとともにそれらに基づく計画の企画・推進に携わっている。2019年度は、6回開催し、機構のデータベースの構築、機構のホームページ等、広報のあり方、各学部の実施している地域連携活動情報の提供、改革総合支援事業(タイプ3)、機構の年報等に関する意見交換、提案等を行った。(委員名簿は巻末に掲載)

4. 連携活動

(1) 東名古屋医師会医療介護総合研究センターとの連携協定の締結(2019年10月16日)

本学と東名古屋医師会との連携については、管理栄養学部臨床栄養学研究室を中心に、医師会の組織である医療介護総合研究センターに設置された「やまびこ認定栄養ケア・ステーション」との間に、在宅や外来診療における栄養食事指導等を目的とした管理栄養士の派遣事業などを通じて連携協力活動を行ってき、これらの活動を発展的に進めるために包括的な連携協定を締結することになった。この協定の締結により、今後は、インターンシップ等の活動を通じて、学生が在宅医療の現場を経験することなどが可能になり、在宅医療分野における栄養ケアモデルに関する研究活動や、発展的には他学部の学生も含めた連携活動も期待される。



協定書を交わす杉浦学長(左)と金山東名古屋医師会会長(右)

(2) 医療法人大医会との連携プロジェクト会議の開催(2019年10月19日)

本学学生の臨地実習、臨床実習や教職員の健康診断等の実施施設である医療法人大医会とは、2019年3月に包括連携協定を締結したが、さらなる連携活動を推進させるため、今年度は2回の会議を開いた。第1回目会議では、学生の実習に関する改善等の方策や、共同研究活動、今後期待される学生の病院・施設でのボランティアの可能性などについて話し合われ、特に本学の管理栄養学部が日進市との連携で行っている「健口・健食げんきくらぶ」については、大医会在宅医療センターの職員から関心が示され、今後、このような双方の機関における様々な関心事について、若手の教職員を中心とした勉強会などへ発展させることを確認し合った。



開催にあたり、挨拶を行う杉浦学長

会議には、本学から地域連携推進研究機構長及び同課長、管理栄養学部長、メディア造形学部長、ヒューマンケア学部長、子どもケア学科長、養護教諭コース主任、看護学部長ほか管理栄養学部教員 2 名、大医会からは、理事、事務次長ほか 5 名の職員が参加した。

5. その他

(1) 私立大学改革総合支援事業(タイプ3)

令和元年度私立大学等改革総合支援事業(タイプ3「地域社会への貢献」地域連携型)に申請した。調査項目は、連携体制と連携内容について、21 項目からなる設問への回答によるものであり、得点は、54 点満点中 36 点で、全国の選定基準が 30 点以上であったため、選定されることになった。

(2) 地域連携のデータベース構築:地域連携カード

各部局で行われている地域連携活動に係る情報を集約し、それらのデータをアーカイブ化するため、連携活動の内容を分類化し、データ化するための書式として「地域連携カード」を作成し、各部局から活動情報を収集することを開始した。

(3) 後援等名義の使用許可に関する要項の制定

地域連携の一環として、学外から本学に対して後援等名義使用の依頼があった場合の許可の基準及びその手続き等を定めるための要項を制定した。(2019 年 12 月 4 日評議会承認)

Ⅱ．サービスマーケティング(SL)センター

1. 年譜

2016年度

- 3月 2日・9日 管理栄養学部 2017 春期荻浜食事提供
長久手市 小学生の学習支援
- 29日 赤十字幼児安全法支援員養成講習会

2017年度

- 4月 ジョギングフェスティバル ぎふ清流ハーフマラソン 2017
- 5月 東浦町学生ボランティア事業学生ボランティア(スクールパートナー)
説明会
名古屋市トワイライトスクール・トワイライトルーム
- 6月 日進市防災訓練ボランティア
- 7月 デンソーみつばちプロジェクト
- 8月 2日 赤十字救急法救急員養成講習会 前期
特別養護老人ホームつばき 夏祭り
- 9月 1日～3日 学べる被災地での地域コミュニティづくり視察
(南三陸町)(4名)
17日 幻一さん 木版画・墨彩画展の展示
2017年 第10回スペシャルオリンピックス 日本・愛知
夏季地区大会
- 10月 コロニー祭
- 12月 tea party
- 2月 スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知
UNified Relay トーチランファーストレグ
三陸&東海 防災フェスティバル“伝(でん)”
- 3月 8日～12日 学べる被災地での地域コミュニティづくり1
(南三陸町)(10名)
14日 赤十字救急法救急員養成講習会 後期
29日 赤十字健康生活支援講習会

2018年度

- 4月 スペシャルオリンピックス日本・愛知
第8回 ジョギングフェスティバル
- 5月 やろまいか！愛・地クリーン作戦!!
- 6月 日進市防災訓練ボランティア
- 7月 未来につなごう！ESD にっしんわいわいフェスティバル
- 8月 2日～6日 学べる被災地での地域コミュニティづくり2
(南三陸町)(10名)
8月16日～9月9日 復興・創生インターン(岩手県九戸郡1名)
竹の山ふれあい夏まつり学生ボランティア
- 9月 つばき夏祭り
5日 赤十字救急法救急員養成講習会
にっしん夢まつり実行委員会ボランティア
コロニー祭

- 10月 あゆみまつり
- 11月 にっしん市民まつり
- 12月 日本語教室(やさしい日本語を使って)
こども大学プロジェクト
- 1月 長久手市 カフェでの高齢者との交流
- 2月 2月13日～3月15日 復興・創生インターン(宮城県石巻市1名)
2月15日～3月17日 復興・創生インターン(岩手県九戸郡1名)
22日～25日 学べる被災地での地域コミュニティづくり3
(南三陸町)(10名)
- 3月 12日 赤十字幼児安全法支援員養成講習会
13日 赤十字健康生活支援講習

2019年度

- 4月 第Q回記念大会 GIFU HARF MARATHON ボランティア
- 5月 やろまいか！愛・地クリーン作戦!!
- 6月 日進市防災訓練ボランティア
- 7月 にっしんわいわいフェスティバル実行委員会 実行委員
もりもり元気食堂
- 8月 キッズチャレンジのお手伝い
名東区ふれあい交流会
夏休みこどもの学習援助ボランティア
竹の山自治会主催ふれあい夏祭り
「もりもり元気食堂」夏の延長版
8月17日～9月14日 復興・創生インターン(岩手県九戸郡)
(1名)
8月19日～9月13日 復興・創生インターン(福島県いわき市)
(1名)
- 9月 福祉会館「子どもまつりボランティア」
にっしん夢まつり実行委員会ボランティア
愛知県医療療育総合センター「センターふれあいフェスティバル」
(旧コロニー祭)ボランティア
- 10月 特別養護老人ホームつばき つばき祭り
19日・20日 ぼうさいこくたい2019(10名)
第14回あゆみまつり
- 11月 第20回にっしん市民まつり学生ボランティア
22日・23日 G20 愛知・名古屋外務大臣会合
大学生語学 ボランティア(1名)
- 12月 やろまいか！愛・地クリーン作戦 ボランティア
日進市絆子ども食堂
- 1月 岡崎市 おいでん屋
- 2月 日進市 ボランティアコーディネーターと行く！
ボランティア体験講座
2月12日～3月14日 復興・創生インターン(岩手県九戸郡)(1名)
2月14日～3月14日 復興・創生インターン(宮城県石巻市)(1名)
20日～23日 南相馬 SL 視察(4名)

2. SL センターの目的

学生が社会の要請に対応した社会貢献活動(ボランティア活動)に主体的に参画し、体験的学習を通じて建学の精神である「人間教育」に貢献する。

※ボランティア活動を通じて、学びを得るという趣旨で、ボランティアセンターではなく、サービスマーケティングセンター(SL センター)と名付けられた。

3. 学生の SL 登録・参加概要

(1) SL 登録状況

2019 年度の SL(ボランティア)登録状況を表1に示す。在籍者数(2,927 名)に対し、登録学生は 1,183 名(40.04%)だった(表1)。

表1 2019 年度 SL 登録状況

2020年3月31日現在

学部	学科	学年	在籍者数 (名)	登録者数 (名)	在籍者に対する 登録者の割合(%)
管理栄養学部	管理栄養学科	4年生	168	102	61
		3年生	170	112	66
		2年生	174	115	66
		1年生	175	93	53
ヒューマンケア学部	子どもケア学科	4年生	229	109	48
		3年生	231	113	48
		2年生	224	134	59
		1年生	236	38	16
メディア造形学部	映像メディア学科	4年生	122	2	2
		3年生	121	121	100
		2年生	107	19	18
		1年生	123	5	4
	デザイン学科	4年生	90	12	13
		3年生	83	26	31
		2年生	84	2	2
		1年生	88	2	2
	ファッション造形学科	4年生	80	81	101
		3年生	75	79	105
		2年生	66	14	21
		1年生	70	0	0
看護学部	看護学科	2年生	105	7	7
		1年生	106	0	0
		合計	2927	1186	40

学科別登録者割合を図1に示す。

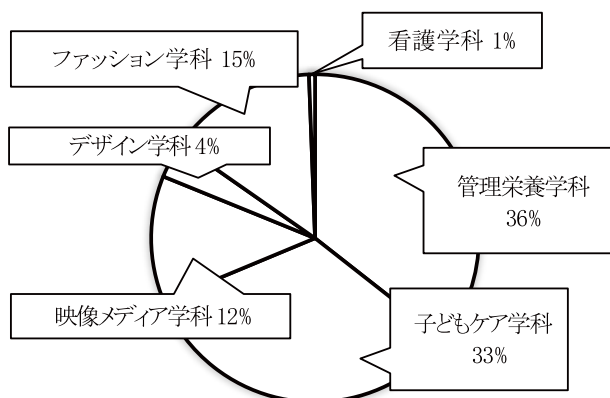


図1 学科別 SL 登録者割合

2017～2019 年度における新規登録者数を表2に示す。当該年度に登録した学生が各学年に何名いたかをあらわしており、2年次以降の新規登録者は少ない傾向だった。

表2 ボランティア新規登録者数(2017 年度・2018 年度・2019 年度)

2020年3月31日現在

学部	学科	学年	2017年度	2018年度	2019年度
管理栄養学部	管理栄養学科	4年生	0	1	0
		3年生	5	17	1
		2年生	10	13	15
		1年生	98	96	93
ヒューマンケア学部	子どもケア学科	4年生	0	4	0
		3年生	3	1	2
		2年生	4	18	0
		1年生	93	134	38
メディア造形学部	映像メディア学科	4年生	0	0	0
		3年生	2	0	0
		2年生	0	0	0
		1年生	121	19	5
	デザイン学科	4年生	0	0	0
		3年生	0	0	1
		2年生	7	0	0
		1年生	25	2	2
	ファッション造形学科	4年生	51	0	0
		3年生	80	0	0
		2年生	82	0	3
		1年生	79	11	0
看護学部	看護学科	2年生	0	0	0
		1年生	0	7	0
		合計	660	323	160

(2) SL 参加状況

2017～2019 年度における SL 参加者数を表3に示す。

管理栄養学部及びヒューマンケア学部学生の参加が多かった。

2019 年 4 月、SL センターがレ・アール 2 階から 1 号館 2 階に移設されたことにより、管理栄養学部学生の参加が増化したと考えられた。

表3 年度別活動状況

2020年3月31日時点 単位:人(延べ人数)

学部	学科	学年	2017年度	2018年度	2019年度
管理栄養学部	管理栄養学科	4年生	0	1	0
		3年生	22	23	6
		2年生	21	55	21
		1年生	65	49	81
ヒューマンケア学部	ヒューマンケア学科	4年生	0	0	1
		3年生	9	22	2
		2年生	30	22	6
		1年生	22	36	11
メディア造形学部	映像メディア学科	4年生	0	0	0
		3年生	0	0	0
		2年生	0	0	0
		1年生	2	4	3
	デザイン学科	4年生	0	0	0
		3年生	0	4	1
		2年生	5	0	0
		1年生	0	1	0
	ファッション学科	4年生	0	0	0
		3年生	0	0	0
2年生		0	0	2	
1年生		0	2	0	
看護学部	看護学科	2年生	0	0	0
		1年生	0	0	0
		合計	176	219	134

4. ボランティア要請及び派遣件数

2017～2019 年度のボランティア要請件数と派遣件数を表4に示す。
65～78 件のボランティア要請に対し、26～41 件の派遣を行った。市町からのボランティアの要請は、34～42 件で全体の 44～55%を占めた。

表4 ボランティア要請及び派遣件数(2017～2019 年度)

要請元及び派遣先		2017年度(4.1～3.31)		2018年度(4.1～3.31)		2019年度(4.1～3.31)	
		要請	派遣	要請	派遣	要請	派遣
1 郡	市町	34	11	42	19	36	18
	官公庁	1	0	2	2	1	1
2 郡	協定機関	1	0	0	0	0	0
	公益法人	21	5	16	6	17	1
	社会福祉法人	3	2	3	2	3	3
3 郡	NPO	5	3	5	4	5	2
	NGO	1	0	0	0	0	0
4 郡	企業	2	2	0	0	0	0
	大学	13	11	9	8	3	1
	一般	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	1	0	0	0
合計		81	34	78	41	65	26

要請元及び派遣先を 4 つのカテゴリー(1 群～4 群)に分類し、各郡ごとに集計したボランティア要請件数割合を図2に示す。

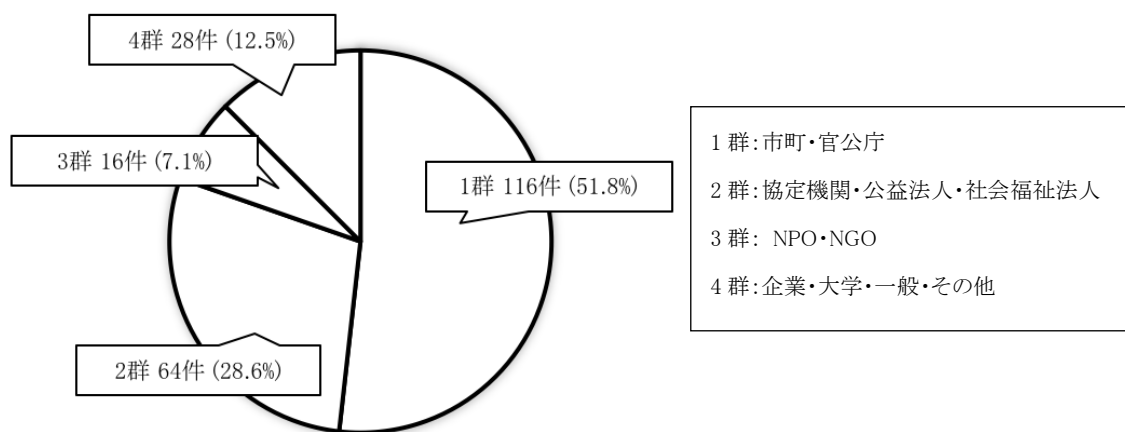


図2 群別ボランティア要請件数の割合

要請件数に対する派遣件数の割合は、40～53%だった(図3)。

要請されたボランティアについて、SL センター「ボランティア活動の対象」に該当する活動であっても、希望する学生がなく、派遣できない事案が約半数だった。学生は学部学科の学びに沿ったボランティアを希望するが多かった。

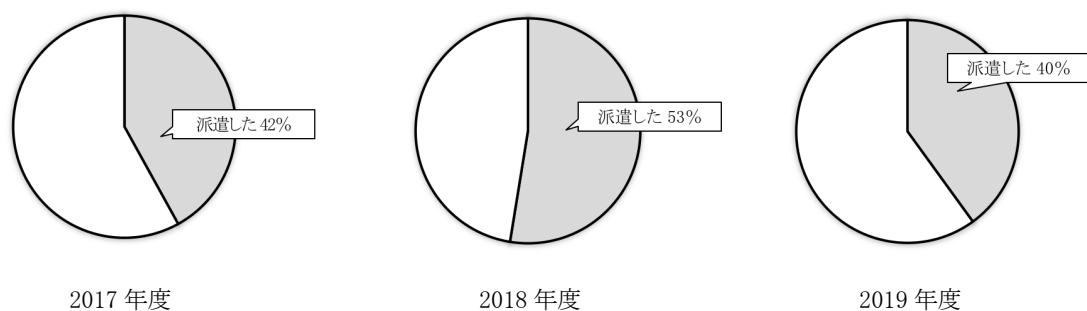


図3 ボランティア要請件数に対する学生派遣件数の割合(2017～2019年度)

5. ボランティア派遣実績

2017～2019年度のボランティア派遣の種類とその概要を表5-1～5-3に示す。

表5-1 2017年度ボランティア派遣実績

種類(件数、人数)	概要
障がい者と接する (2件、7人)	コロニー祭
	2018年第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知 Unified Relay トーチラン ファーストレグ
イベント・祭りの運営 (7件、49人)	あいち国際女性映画祭2017 映画祭
	スペシャルオリンピックス日本・愛知 サッカー・コーチクリニック
	特別養護老人ホームつばき 夏祭り
	マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2018 名古屋ウィメンズマラソン2018 名古屋シティマラソン2018 名古屋ウィメンズホールチェアマラソン2018
	tea party 企画・運営
	2018年第7回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・愛知 運営 社会福祉法人 愛知育児院 平成29年度「ふれあいまつり」
子どもと接する (3件、11人)	東浦町学生ボランティア事業 学生ボランティア(スクールパートナー)説明会
	日進市福祉会館 子どもまつり
	平成30年度名古屋土曜学習プログラムいきいきサポーター
学生企画及び運営 (4件、30人)	竹の山ふれあい夏祭り実行委員
	たけのこキッズ子ども会の”新入生歓迎会”
	春だ！桜だ！まちセン縁日！！～みんなで楽しくまちづくり！！～
	未来につなごう！ESD につしんわいわいフェスティバル 出展団体
学部・学科の専門知識を活かす (1件、12人)	デンソーみつばちプロジェクト デンソーのはちみつを使って、はちみつレシピづくり①②
清掃活動 (2件、11人)	竹の山自治区の清掃活動 やろまいか！愛・地クリーン作戦！！
その他 (9件、40人)	防災訓練
	平成29年度 学生によるまちづくり提案
	長久手市 ボランティア入門講座
	幻一さん 木版画・墨彩画展の展示
	三陸&東海 防災フェスティバル “伝(でん)”
	スペシャルオリンピックス日本・愛知 第8回 ジョギングフェスティバル
	なごやフレンドリーナウ(名古屋市子ども適応相談センター)
復興インターン(1件、17人)	復興・創生インターン 説明会
学べる被災地での地域コミュニティ づくり (2件、14人)	学べる被災地での地域コミュニティづくり 視察学生
	学べる被災地での地域コミュニティづくり(第1回)

表5-2 2018年度 派遣実績

種類(件数、人数)	概要
障がい者と接する (5件、21人)	ユニス・ケネディ・シュライバー・デー ユニファイドスポーツ®
	コロニー祭
	名東区ふれあい交流会
	ローゼルサロン ポッチャ体験教室
	はなのきまつり2018
イベント・祭りの運営 (7件、33人)	あいち国際女性映画祭2018 映画祭
	おんぱく
	竹の山夏まつり 2018 ステージ担当
	つばき夏祭り飲食コーナー又はゲームの補助
	マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2019
	第19回にしん市民まつり
子どもと接する (8件、25人)	第Q回記念大会 GIFU HALF MARATHON
	平成30年度 日進市福祉会館 子どもまつり
	子どもの宿題などの学習支援
	東浦町3校合同わくわく算数・数学教室 スクールパートナー
	そよかぜフリースクール 楓老人憩いの家での子ども学習支援
	遊びの交流会 名古屋学芸大学
	名古屋学芸大学 こども大学プロジェクト
	子ども食堂開催日の子どもの見守り他(岡崎市 おいでん家)
2019年度 ホームフレンド	
学生企画及び運営 (4件、14人)	にしん夢まつり実行委員会
	2018 長久手市福祉まつり 出展
	竹の山ふれあい夏まつり
	にしんわいわいフェスティバル実行委員会
清掃活動(1件、3人)	やろまいか! 愛・地クリーン作戦!!
その他 (7件、17人)	日進市防災訓練
	スペシャルオリンピックスをもっと知っていただく講座「ゼネラルオリエンテーション・アスリート理解」
	名古屋グランパス&SON・愛知 サッカー教室
	スペシャルオリンピックス日本・愛知 スポーツプログラム
	長久手 高齢者との交流
	長久手市 カフェでの高齢者との交流
	スペシャルオリンピックス愛知・日本 第9回 ジョギングフェスティバル(スペシャルオリンピックス日本・愛知 設立20周年記念)
復興インターン (2件、14人)	復興・創生インターン 説明会
	復興・創生インターン 実践型インターン
学べる被災地での地域コミュニティづくり (2件、17人)	学べる被災地での地域コミュニティづくり2
	学べる被災地での地域コミュニティづくり3

表5-3 2019年度ボランティア派遣実績

種類(件数、人数)	概要
障がい者と接する (2件、2人)	愛知県医療療育総合センター「センターふれあいフェスティバル」(旧コロニー祭)
	名東区ふれあい交流会
イベント・祭りの運営 (9件、57人)	にしんわいわいフェスティバル 「出展団体」
	にしん夢まつり実行委員会
	にしんわいわいフェスティバル ボランティアスタッフ
	鯨レレ万博(音楽フェスティバル)運営
	2019年第11回スペシャルオリンピックス日本・愛知 夏季地区大会
	愛知育児院「ふれあいまつり」
	特別養護老人ホームつばき つばき祭り
	第20回にしん市民まつり学生ボランティア
	第14回あゆみまつり
子どもと接する (9件、38人)	福祉会館「子どもまつりボランティア」
	西小地区社協子どもサロン もりもり元気食堂
	「もりもり元気食堂」夏の延長版
	おいでん屋 子ども食堂 夏休みおいでん
	ココカラ 子ども食堂
	急募キッズチャレンジのお手伝い
	夏休みこどもの学習援助ボランティア募集
	日進市絆子ども食堂
	東浦町学生ボランティア事業(令和元年度) 学生ボランティア(スクールパートナー)
清掃活動(1件、15人)	やろまいか！愛・地クリーン作戦！
その他 (3件、10人)	南小学校区防災訓練のボランティアに参加しませんか？
	G 20 愛知・名古屋外務大臣会合 大学生語学
	ボランティアコーディネーターと行く！ボランティア体験講座
復興インターン(1件、3人)	復興・創生インターン説明会

6. SL 参加学生の体験報告(抜粋)

(1)社会福祉(高齢者・障がい者・子ども等)系活動

キッズチャレンジ： 管理栄養学科 1年

今回初めてボランティアに参加して、多くの参加者と接しながら、作業を行うのはとても大変でした。受付の際にも、多くの人がいっしょに来て忙しかったが、他のボランティアの方と協力して作業を行うことができた。普段、関わることのない人と協力して作業を行うことは、とまどいもありましたが、良い経験になりました。また、イベントには多くの子供が参加していたため、子供と接する時間も長く、多くのことが吸収、学ぶことができました。

子どもまつり： デザイン学科 3年

自分はボランティアに参加するのはこれが初めてだったのでとても緊張しました。しかしボランティア先の職員さんや自分以外のボランティアの皆さんがあたたかく受け入れてくれて、すぐに打ちとけることができました。それと同時に、自分の担当だったミニゲームコーナーには子どもたちが大勢来てくれたので、緊張しているひまはありませんでした。そしてその子どもたちもとても楽しそうに遊んでくれたので良かったです。初めての自分に何ができるか不安でしたが、こんな自分でも少しは役に立てたかと思って安心しました。機会があれば来年も参加してみたいかもしれません。

ふれあいまつり： 管理栄養学科 1年

今回のボランティアは利用者様との距離が近く、どうすれば喜んでもらえるのかを自分自身で考える事が多くあったと感じます。特に、ゲームの付き添いでは利用者様と私で手をつなぎ、2人で各々のゲームを体験しました。その中でたくさんの笑顔を見ることができ、また、小さな事でも感謝されることが多くありとても嬉しい気持ちになりました。最後には「あなたに出会えて良かった。本当に来てくれてありがとう。」と言ってくれ、ボランティアを行って良かったなどあらためて思いました。ボランティアを行う中で、素敵な出会いもあり、学ぶ事もたくさんありました。利用者様にとっても喜んでもらった、楽しんでもらえたと感じましたが私にとっても楽しい時間であり本当に有意義な時間でした。

子ども食堂： 管理栄養学科 2年

主に、食堂内での食事の配膳を行いました。階段などの段差が多かったり、汁気の多いものが多かったりしたので、配膳が少し大変でした。また、子どもに提供する食事の量や品数と大人に提供する食事の量や品数に、あまり大きな差がなく、小さな子どもも、大人と同じ

量を食べているということに驚きました。食事の配膳が終わった後は、子どもといろいろなゲームをして遊びました。普段から食堂を利用している子どもが多く、遊び方やルールを教えてもらいながら、一緒に遊びました。ケンカになりそうな時もありましたが、楽しそうにしてくれていたのも、良かったなと感じました。今回のボランティアを通して、地域のつながりをととても感じました。子ども食堂という一つの場所によって、同じ地域の子ども同士がつながったり、大人と子どもがつながったり、また、食事によって、地域の人から提供してもらったものを食べることができたり、とても良い場所だと思いました。

(2)環境保全(自然保護・清掃・美化等)系活動

清掃活動: 子どもケア学科・幼児保育専攻 1年

ごみ拾いは初めて参加しましたが、地域住民の方が和気あいあいとした雰囲気の中でボランティアをされていたので、とても参加しやすい印象でした。普段から中央分離帯に落ちている缶やたばこのごみは気になっていましたが、拾ってみるとその量の多さに驚きました。ごみ拾いを行うことで、次にごみを捨てる人への抑止力となれば良いなと感じました。愛・地球博が行われていた時は小さくて記憶にあまりないのですが、成長して、こういった形で今も愛されている場所に行ってボランティアができてよかったです。ボランティアをするまでのハードルはどうしても高いものだと思います。でも、こういったごみ拾いという簡単なことでも誰かのためになるし、自分のためにもなるなと感じました。ボランティアを終えてから、大学内で落ちているごみ等に目がいくようになりました。ごみ拾いを通じて住民の方と交流ができました。大学内だけでは交流できない方と話したり、一緒に考えたりできるのは、ボランティアだから出来ることだと思っています。

(3)文化交流(芸術・スポーツ・通訳等)系活動

G20 大学生語学: 管理栄養学科 3年

今回のボランティアでは、英語で愛知の魅力を発信するという事で日常的に英語を使っていない私には少し不安がありました。また魅力を英語で伝えることはとても難しいように感じました。しかし事前に英語をもう一度勉強し直し準備を行うことで、英語も学ぶことができ、さらに愛知の名所や食文化、お祭りを調べることで、今まで知らなかった愛知についても学ぶことができました。G20 大学生語学ボランティアに参加させて頂き、授業では学ぶことの出来ないとても貴重な経験をさせて頂くことができました。なかなか経験できない機会を頂けたことに感謝し、この貴重な経験を今後活かし、頑張りたいと思います。

岐阜 マラソン 給水： 管理栄養学科 3年

初めてのボランティアで緊張していたけど、代表の方がやる事を教えてくれて、わかりやすかった。私達の配属された給水先は地元の中学生 100人以上と大人の方 5人だったため、私達は給水の手伝いをする事になった。手伝いをするだけで指示されたため、何個かに分かれている中学生のかたまりを分担して見ることにした。私の担当した所は中学 1年生の男の子が多いところで、最初はコミュニケーションをとるのが大変だった。しかし、積極的に話しかけ、心を開いて、頼ってくれるようになり、とてもうれしかったし、コミュニケーションがとれてから作業の手際も良くなりスムーズにできた。思春期の子たちで話してくれるのが遅かったり、逆にとてもやんちゃで給水の際に使うペットボトルを投げて散らかしてしまったりしていたが、フォローしてあげながら飽きずにやり切ってもらえるよう声をかけられた。自分が直接給水ができたわけではないけど間近で選手を見て、給水のフォローができてよかった。

にしんわいわい 出展： 子どもケア学科・養護教諭コース 1年

防災折り紙でピカチュウをつくりお守りにするブース出展をした。ピカチュウをお守りにすることで子どもたちは親しみやすいし、黄色の折り紙は目立つのでいいなと思った。災害時にどうすればいいのか、私は小さいころ家族とそれほど話す機会がなかった。しかし、今回参加してくれた子は、これを機に家族でどうすればいいか話し合うきっかけになったのではないかと思う。いざという時、前もって家族で話し合ったり、防災グッズの準備をしておくことはとても大切だと思う。このボランティアをきっかけに私も防災について色々考えることがあったので、友達と話し合うなど、もっと知識を身につけたいと思う。

音楽フェスティバル 運営： 映像メディア学科 1年

私が SL を行い、一番大切だと感じたのは、物事に取り組む心構えだ。私は今までボランティアを「してあげる」ものと考えていた。しかし、仕事をする上で人の話を聞き、実行する、分からないことは人に聞いたり指示を求めたりするなどのことをボランティアを通して学ぶ勉強の場だと感じた。このような経験は、学校の勉強か、友達と関わるだけで身につかない、人間関係の基本を私に教えてくれた。挨拶一つとっても、「してあげる」と「させていただく」では違ってくる。そういった気持ちは自らの態度に表れる。自分から進んでやったことで最後に「ありがとう」と言われることが、自分に達成感を与えてくれると思う。また、施設の人の話から学んだこともある。「こういった場で色々な人と話し、考えを認め自分に合うものを探すことも大切。」という言葉が私の心に残っている。ボランティアはそれだけでなく、礼儀、人と話すことなどそれ以外のことも学ぶ場だと私は思う。

夢まつり 実行委員： 管理栄養学科 2年

かなり暑い中のボランティアだったため体調管理が大変でした。ゴミ捨て場の誘導ではごちそうさま、ありがとうといったことを言ってくれる人が数多くいてとてもやりがいを感じました。昼のパレードでは数多くの方がパレードに参加しとてもにぎやかでした。パレードでは水分補給のお手伝いをしました。パレードに参加している人も笑顔でありありがとうと声をかけてくれてとてもうれしかったです。今回のような大きな祭りの運営の手伝いははじめてでしたが、多くの人の協力によって円滑に祭りが行えているのだと感じました。とてもやりがいを感じたボランティアなのでまた参加したいと思いました。

スペシャルオリンピックス： 管理栄養学科 1年

アスリートの方々とハイタッチをしたり、一緒にボウリングを楽しむことができました。アスリートの方々はうまく言葉が話せなかったりコミュニケーションをとるのが難しかったけど、自ら言葉をかけに行くことによって心をひらいてくださってとてもうれしかったです。ボールを投げる順番などを教えたり、ピンがずれてしまったときにサポートに入るような仕事内容でした。ボランティアに参加したことによって、色々な人と関わることができ、どのように伝えるとよいのかを考えることができ、良かったです。最後にアスリートの方々が”お疲れ様、ありがとう”と行ってくださり、とてもうれしかったです。

市民まつり： 管理栄養学科 1年

にっしん市民まつりは子どもから高齢の方まで、すべての世代の方が参加されていました。そのため、スタンプラリーの用紙を配るときに、多くの方と会話をすることができ、とても良い経験だと感じました。景品交換のときは、一度に多くの方が交換をすることになってしまい、少し混乱状態になってしまいました。そのとき、私は少し焦ってしまいしっかりと伝えることができなかつたため、勘違いをされてしまった方がいらっしや、自分が落ち着いて対応しないといけないことを学びました。景品を交換したときに笑顔で「ありがとう」と言ってもらった経験など、このボランティアでしか経験できないことだと思いました。この経験は、今後多くのことに役に立つと思うので、このボランティアに参加することができ、とても良かったと思いました。

(4)安全防災(安全対策・防災活動・災害等)系活動

防災訓練 炊き出し: 管理栄養学科 1年

今回の防災訓練のボランティアで、私はアルファ化米の炊き出しのお手伝いと骨折手当、煙体験ハウスの見学をさせていただきました。アルファ化米はお湯を入れてかきまぜておくだけでできるのにとってもおいしかったです。また、煙体験ハウスでは隣にいるはずの友達の姿も見えず、火災時は見慣れた場所においてもとても不安になるということがわかりました。今回のボランティアに参加したことで、今まで実際に災害が起こった時、避難所などで自分はどうしたらいいのか、何も手伝うことができるのかということあまりちゃんと考えたことがないことに気がきました。今回はそれを考えてみるきっかけとなり、自分にもできることがあるという自信を少しですがつけることができたのでとてもよい経験になりました。

(5)地域活動(まちづくり・地域イベント・観光案内等)系活動

復興・創生インターン: 管理栄養学科 1年

インターシップに参加して、多くの人と出会い、多くの発見がありました。最初の2週間で新たな働き方を提案していただいたり、自分が思いのほか課題に対して意見を言える発見がありました。今回のインターシップで行ったイベントは、最初の2週間での学びがつながって企画することができ、短い準備期間でしたが、多くの人達の協力により開催することができました。このイベントで人とのつながりの重要性を感じました。また、栄養教育について関心を持ち、教職を取るきっかけとなりました。1か月間のインターンシップで自分の考えを発信すること、同期のインターンシップ生や地域の人達との交流が自分を大きく成長させてくれました。1年生での参加は、かなり勇気が入りましたが早い段階で進路について考えたり、自分の可能性を見出したりと後期の授業選択にもこの経験を生きてきているので、とても良かったです。今の自分の知識不足を痛感し、現在の講義を、さらに積極的に受けるようになりました。今回、つらかった点は2人で行うインターシップを1人で行ったことです。インターンでの日報・進捗状況・精神面などとても悩むことが多くて、とても大変な部分でした。しかし、インターン担当者や他のインターン生に支えられて、最後まで走抜けることができました。

子ども食堂: 管理栄養学科 1年

調理をしているときは、地域のボランティアの方々に関わるが多かった。高齢の方が多くいにもかかわらず、とても元気で、生き生きしている人ばかりで、たくさんの会話があって、ボランティアの方々も交流をたのしみにきていることが分かった。子ども37人くらいに対して学生3人だったから、一人一人に勉強を教えたり、みんなと遊ぶことが出来なかったからそこ

をできるだけ平等にしようとするのがとてもむずかしかった。いろいろな子どもがいる中で、おとなしい子にもしっかりと目を向けることができたかなと思う。今回は、とても外が暑かったにもかかわらず、元気に外で遊んでいる子が多く、うらやましかった。元気いっぱいの子どもたちからたくさんの元気をもらった。

ふれあい交流会： 管理栄養学科 1年

初めて発達障がいの子どもたちと関わり、接したため、初めて知ること体験することがたくさんあった。一人一人障がいの症状がちがいで、最初はどう接したらいいか分からず戸惑った。しかし、自分が思っていた以上に相手の子どもたちは元気よく、関わろうとしてくれる子が多かった。一日を通して、子どもたちに助けられることも多く、バランスボールなどで一緒に遊ぶ中でたくさんの元気をもらった。

今回のボランティアがあるまでは、自分で勝手に発達障がいの子どもたちは“少し変わっている、関わりにくい、通じないのではないかな”など思ってしまいましたが、実際に関わってみて、そのようなことはなく、1人としての子どもで、差別的な目を向けていた自分が情けなくなった。実際に関わることは、何より大切だと改めて感じた。

子どもの学習援助： 管理栄養学科 1年

今回は子どもの宿題の手伝いをするボランティアでした。日頃小学生くらいの子どもと接する機会がないので少し接し方が難しかったです。私たちが普段使っている言葉だと小学生には難しすぎて伝わらないと思い、考えながら話さないといけなかったと思います。管理栄養士として病院や保育園などに行ったら子どもたちと関わる機会もあると思うので、そのような事も大事だと気づくことができ良かったです。夏休みは、親が仕事がある家庭では子どもだけで留守番しないといけなかったり、ゲームばかりしがちになってしまうと思うので、今回のようなボランティアで子どもたちの居場所作りに貢献できて良かったです。地域の方々も来ていて、異なる世代同士での交流の場ともなり、良い機会だと思いました。

つばき祭り： 管理栄養学科 1年

つばき祭りの補助は午後からで、午前中は丁寧に施設やお仕事についてお話を聞かせていただくと共に館内も見学させていただきました。特別養護老人ホームにはどんな方がどのように暮らしているのかという事からどのように仕事されているのかという事まで教えていただき、とても勉強になりました。また、実際に現場へ行くことで具体的なイメージを持つことができました。つばき祭りでは飲食コーナーで商品の受け渡しをしました。そこでは多くの人の入居者の姿を見ることができ、入居者はどこまでの事が自力で出来るのかなどを知ることがで

きました。このような体験が自分の将来を考えるにあたって有益な情報になると思います。とても貴重な時間を過ごせて良かったです。

あゆみまつり： 管理栄養学科 1年

あゆみまつりでは模擬店やくじ引き、ボールすくいなどのゲームコーナーなどに加えて、太鼓やダンスなどのステージ発表もあり幅広い年代の方が訪れてきました。その中で私はベーカリーあゆみのパンの販売ブースを担当し、パン出しやパンを袋に入れてお客様に手渡すことをしました。「ありがとうございます」と言ってパンを渡すと笑顔で返してくれる方が多く、とても嬉しく感じました。1番忙しくて大変なところだからがんばってと、担当ブースのスタッフの方に言われて緊張していましたが、働いている間はとても楽しく時間があっというまに過ぎていくのを感じました。ぜひ来年も参加したいです。

7. 主催講習会

2017～2018 年度に実施した赤十字救急法、健康生活支援講習、幼児安全法の講習会の概要を表6に示す。

表6 赤十字講習会の内容

講習名		短期講習	養成講習
救急法	日程	90分	3日間 9:00～17:00
	内容	一次救命処置(心肺蘇生法、AEDを用いた除細動、気道異物除去)	傷病者の観察の仕方及び一次救命処置(心肺蘇生、AEDを用いた除細動、気道異物除去)等救急法の基礎知識+急病の手当、けがの手当(止血法、包帯法、固定法)、搬送法及び救護
	交付証	修了者に受講証	修了者に受講証 検定合格者に赤十字救急法救急員認定証
	費用	無料	3200円(資料等)
健康生活支援講習	日程	90分	2日間 9:00～17:00
	内容	避難所における高齢者支援	健康増進や介護予防などの知識、高齢者に多い事故の予防と手当、地域で行う高齢者に役立つ知識・技術、自立に向けての介護の仕方
	交付証	修了者に受講証	修了者に受講証 検定合格者に赤十字健康生活支援講習支援員認定証
	費用	無料	900円(資料等)
幼児安全法	日程	90分	3日間 9:30～16:30
	内容	小児・乳児の心肺蘇生とAEDの使い方、身近なものを使った応急手当	こどもの事故と予防、乳児・幼児の心肺蘇生、子どもの病気と看病
	交付証	修了者に受講証	修了者に受講証 検定合格者に赤十字幼児安全法支援員認定証
	費用	無料	1800円(資料等)

各講習会の開催日時および受講者数を表7に示す。

なお、2019年度は、主催講習会を実施していない。

表7 開催日時および受講者数

		養成講習会日程及び受講者数	
2017年度	救急法	2017年 8月 2日(水)～ 4日(金) 9:00～17:00	6名
		2018年 3月 14日(水)～16日(金) 9:00～17:00	16名
	健康生活支援講習	2018年 3月 29日(木)～30日(金) 9:00～17:00	6名
2018年度	救急法	2018年 9月 5日(水)～ 7日(金) 9:00～17:00	19名
	健康生活支援講習	2019年 3月 14日(木)～15日(金) 9:00～17:00	4名
	幼児安全法	2019年 1月 29日(水)～31日(金) 9:30～16:30	8名

各講習会に参加した学生の参加者数を表8に示す。

表8 学部学科学年別講習会参加者数

2020年3月31日時点

学部	学科	学年	2017年度	2018年度
管理栄養学部	管理栄養学科	4年生	0	0
		3年生	2	3
		2年生	1	0
		1年生	2	2
ヒューマンケア学部	ヒューマンケア学科	4年生	0	0
		3年生	7	5
		2年生	5	9
		1年生	11	12
メディア造形学部	映像メディア学科	1～4年生	0	0
	デザイン学科	1～4年生	0	0
	ファッション学科	1～4年生	0	0
看護学部	看護学科	1～2年生	0	0
		合計	28名	31名

8. 復興支援活動

(1) 復興・創生インターン※

2017～2019年度に復興庁が行う被災地企業を対象とした実践型インターンシッププログラムに参加した学生は7名だった。

※復興・創生インターンとは(復興庁 Web サイトより引用)

「復興・創生インターン」は、復興庁事業「伴走型人材確保・育成支援モデル事業」の1つであり、岩手県、宮城県、福島県の被災地企業を対象とした実践型インターンシッププログラムです。

学生の皆さんにとっては、単なる就業体験に留まらず、被災地企業が抱えている課題に対し、経営者と協働して解決に取り組む実践型インターンシッププログラムであり、約1か月間、学生同士、共同生活を送りながら就業体験を経験することにより、キャリア観の醸成や課題解決能力の向上を図ることを目的としています。

この「復興・創生インターン」に参加し、被災地で復興に懸命に取り組む人々や、地域で活躍する人々と一緒に、様々な課題へ挑戦してみませんか？

<https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1->

[1/fukkosousei_intern/20170605094415.html](https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-1/fukkosousei_intern/20170605094415.html)

インターンの日程、企業名、企業所在地、参加者の所属、学年、人数を表9に示す。

表9 復興・創生インターン参加実績

時期	期間・場所・企業名・参加人数等	
2017年春期	—	
2018年夏期	8月16日～9月9日 岩手県九戸郡洋野町 株式会社ミナミ食品 ヒューマンケア学部3年1名	—
2019年春期	2月13日～ 3月15日 宮城県石巻市 ぱんぷきん株式会社 デイサービスさくら 管理栄養学部1年1名	2月15日～ 3月17日 岩手県九戸郡洋野町 フェアリーテ株式会社 管理栄養学部1年1名
2019年夏期	8月17日～9月14日 岩手県九戸郡洋野町 株式会社おおのミルク村 管理栄養学部1年1名	8月19日～9月13日 福島県いわき市 あらたなALATANA 管理栄養学部1年1名

時期	期間・場所・企業名・参加人数等	
2020年春期	2月12日～3月14日 岩手県九戸郡洋野町 株式会社ミナミ食品 管理栄養学部1年1名	2月14日～3月14日 宮城県石巻市 島津麴店 管理栄養学部2年1名

(2) 学べる被災地での地域コミュニティづくり

学べる被災地での地域コミュニティづくりは、本学独自の復興支援活動であり、その目的は、東日本大震災で大きな被害を受けた南三陸町志津川地区の清水団地において、住民の健康管理と震災で変化した地域コミュニティの再構築をサポートすることである。本活動において、学生たちは他者理解に努め、課題を見つけ、課題解決方法を探り、実践可能な対策を考える努力をする得難い機会となった。本活動は、学生の思考の幅を広げ、学びをアウトプットする機会となり、建学の精神である「人間教育と実学」が実践できる場になる。参加した学生の満足度は極めて高かった。

本活動は、年に2回実施することが計画されたが、2017年9月～2019年2月の間に視察を含め4回実施された(表10)。全学部学科を対象に参加学生を募集し、各々の専門的知識・技術を生かした活動を行うこと、学生10名、引率教員3名、期間は5泊6日を基準とすること、学生は、2名1組で被災者宅にホームステイし、被災者との交流を深めること、南三陸町のみならず震災の被害が大きかった地域の視察も行うことなどを計画した。活動は、団地住民の健康管理とコミュニティ創出を柱とし、前者は骨密度や体組成の測定と食事調査を、後者は学生の意見を中心に住民と共に活動できるイベント(餅つきや流しそうめんなど)を考案し実施した。

表10 学べる被災地での地域コミュニティづくり実施状況

回	日程 (活動報告パネル)	参加 人数	活動内容
視察	2017年 9月1日～3日 (パネル4→P.65)	4名	・団地の規模と住民構成調査 ・住民の期待と今の問題点の洗い出し
1	2018年 3月8日～12日 (パネル5→P.67)	10名	・ホームステイ ・被災状況の視察 ・イベント準備・実施(健康測定、ウォークラリー、餅つき、踊り)
2	2018年 8月2日～6日 (パネル6→P.70)	10名	・ホームステイ ・被災状況の視察 ・イベント準備・実施(健康イベント、工作(シーグラス)、太巻きづくり、夏まつり・踊り)

回	日程 (活動報告パネル)	参加 人数	活動内容
3	2019年 2月21日～25日 (パネル7→P.72)	10名	・ホームステイ ・被災状況の視察 ・イベント準備・実施(健康イベント(名古屋めし(モーニングサービス・味噌煮込みうどん・天むす)、カラオケ、踊り)

(3) みなみそうま SL

みなみそうま SL 活動は、学べる被災地での地域コミュニティづくり活動につづく復興支援活動として企画された(P.32 図4参照)。

オトナの食育をテーマとした地域資源の活用と農業振興の両立プロジェクトで、その特徴は、①名古屋学芸大学の専門性を活かした包括的なプロジェクトであり、②食、農というヒトにとっての根源的なテーマを掲げ、③クリエイティブな問題解決能力が求められる活動であり、④南相馬市の資産と現状(風評被害の根絶)の解決を目指すという点にある。本学の学生の学びを活かした事業であり、日進キャンパス3学部の学生を対象に募集する。

企画の実践・実施に向けてSLCが告知し、20名程度を募る。食、育み、創造の三本柱をテーマにした事前学修を行い、地域課題解決を目標に、専門領域の学びを生かした活動を計画する。ローカルエコノミー、シビックプライドなどコミュニティデザインの概念を学ぶこと、南相馬の農産物をブランディングで活性化すること、地域そのものの魅力を最大化すること、消費の作法、楽しみや世代間連携機会を提案すること、野菜で新しい社会価値を創造すること、地域のありようを考える機会を住民に提供することなどを目標に掲げた。

2020年度からの実施に向けて、2019年2月に視察を行った。視察の計画の概要を表11に示す。

表11 みなみそうまSL視察計画の概要

日程	2020年2月20日～22日	参加人数	4名
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・南相馬市役所等にて意見交換(企画課・農政課・こども家庭課・健康づくり課) ・農家民宿 市役所の皆さんと懇談 ・見学・視察(南相馬消防・防災センター、小高地区各所(小高パイオニアビレッジ・小高小学校・小高交流センター・ブライダル&ホテル・ゴロクファーム)、鹿島区内農家民宿、セデッセ鹿島) 		

南相馬市SL:オトナの食育～地域資源の活用と農業振興の両立プロジェクト

20190918
y_tomiyasu

企画の背景

- 名古屋学芸大学の専門性を活かした包括的なプロジェクト
- 食、農というヒトにととの根源的なテーマ
- クリエイティブな問題解決能力がある
- 南相馬市の資産と現状(風評被害の根絶)
 - ・年雨を通して暖かく日照時間が長い、積雪が少ない気候を生かした農業が盛ん
 - ・ねぎ、きゅうり、トマト、プロقوقリーなどは県内における主要産地
 - ・基本理念「農林水産業の現場を元気にする」
 - ・南相馬市農林水産業再興プランを2016年に策定

6次産業化型の農業/南相馬の地域ブランドを構築する農業/観光・交流型の農業/高品質・高付加価値化型の漁業

企画の目標

- 食、育み、創造の三本柱を生かした連携の学修機会を得る
- 地域課題解決を通して、専門領域の学びを生かした人間教育を行う
- ローカルエコノミー、シビックプライドなどコミュニティデザインの概念を実習する
- 南相馬の農産物をブランディングで活性化する
- 地域そのものの魅力を最大化する
- 消費の作法、楽しみの提案、世代間の連携など、野菜で新しい社会価値を創造する
- 地域のありようを考える機会を住民に提供する

企画案

地域発信の食育～南相馬の農産資源ブランディングプロジェクト

みなみそうま
復興大学事業

管理栄養学部

- レシピ開発
- 栄養測定
- 健康促進活動

ヒューマンケア学部
(お絵かき)

- 食育活動
- 子どもWS

地域発信の食育
南相馬の農産資源
ブランディング

地域ブランド構築
特産野菜

メディア造形学部

- 子供の絵でパッケージデザイン
- ネーミング、ロゴデザイン
- 宣伝媒体、宣伝動画

実施方法

- みなみそうま復興大学事業に応募、利用
 - ・シェアオフィス、レンタカー、宿泊費助成などの支援制度
 - ・地域課題解決調査研究事業補助金
 - ・視察など地域とのコーディネート
- 期間：2020年夏休み期間に実施(8/1～8/31)
- 学生募集：SLCから告知、全学部対象で20名程度

図4 みなみそうまSLプロジェクト構想案

(4) 復興支援活動報告会

復興・創生インターンへの参加に際し、事前連絡会及び事前学習会に参加すること、そしてレポート提出と課題発表を参加の必須条件としてきた。さらに2018年度から、復興・創生インターンの現地コーディネータが行う学内説明会及びインターン参加者の行う報告会に参加することも条件とした。

「学べる被災地での地域コミュニティづくり」と「みなみそうま SL」の活動において、東北支援活動報告会への参加、事前連絡会及び事前学習会の参加、レポート提出、課題発表を参加の必須条件とし、参加の手続きとして、SL 登録、SL 参加申込書、ボランティア保険(自然災害特約含)の加入、緊急連絡先の提出を義務づけている。

参加後は、課題や感想、活動報告を SL センターに報告すると同時に、活動成果をパネル、パワーポイント等を用いたスライドショーにまとめ、学内外で発表した。

学内外で実施した報告会の概要を表 12 に示す。

なお、2019 年度は内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議が主催する「ぼうさいこくたい 2019」に参加したのでその概要を併せて掲載した。

表 12 報告会実績

日時	内容	場所	対象	備考
2016 年 12 月 14 日(水) 17:30～	復興・創生インターン生 (2014(平成 26)年春期～ 2016 年夏期)によるティ ーパーティー	本学 5 号館 ラウンジ	本学学生	SL センター 企画
日時	内容	場所	対象	備考
2017 年 11 月 7 日(火) 12:50～	学べる被災地での地域 コミュニティづくり視察	本学 HC206 教室	ヒューマンケア学 部学生・メディア造 形学部学生	
11 月 8 日(水) 12:50～	学べる被災地での地域 コミュニティづくり視察	本学 621 教室	管理栄養学部学 生・メディア造形学 部学生	
11 月 12 日(日) 10:00～	復興・創生インターン 2016 年夏期 荻浜食事支援 学べる 被災地での地域コミュニ ティづくり視察	モリコロパー ク	一般市民	あいち防災 フェスタ
11 月 26 日(日) 9:00～	学べる被災地での地域 コミュニティづくり視察	竹の山小学 校体育館	一般市民	竹の山学区 防災訓練

日時	内容	場所	対象	備考
2018年 7月7日(土) 9:00～	学べる被災地での地域 コミュニティづくり	日進市体育 館	一般市民	にしんわ いわいフェ スティバル
11月11日(日) 8:45～	復興・創生インターン 2018年春期 学べる被災地での地域 コミュニティづくり	モリコロパー ク	一般市民	あいち防災 フェスタ
11月26日(月) 13:05～	復興・創生インターン 2018年春期 学べる被災地での地域 コミュニティづくり	本学 512教室	管理栄養学部学 生・メディア造形学 部学生	
11月29日(木) 13:05～	復興・創生インターン 2018年春期 学べる被災地での地域 コミュニティづくり	本学 HC206教室	ヒューマンケア学 部学生	
11月30日(金) 13:05～	復興・創生インターン 2018年春期 学べる被災地での地域 コミュニティづくり	本学 512教室	管理栄養学部学 生・メディア造形学 部学生	
12月2日(日) 8:00～	復興・創生インターン 2018年春期 学べる被災地での地域 コミュニティづくり	竹の山小学 校体育館	一般市民	竹の山学区 防災訓練
日時	内容	場所	対象	備考
2019年 10月19日(土)・ 20日(日)9:30～	復興・創生インターン 2018年夏期・2019年春 期 学べる被災地での地域 コミュニティづくり	ささしまライブ エリア	一般市民	ぼうさいこく たい 2019
11月8日(金) 13:00～	復興・創生インターン 2019年夏期	本学 512教室	全学生	
12月1日(日)	復興・創生インターン 2019年夏期 学べる被災地での地域 コミュニティづくり	竹の山小学 校体育館	一般市民	竹の山学区 防災訓練

9. 講演会

学生のボランティアに対する意識・知識の向上を目指して、講演会を実施した。
2016～2018 年度に実施した講演会の講師、テーマを表 13 に示す。

表 13 講演会概要

開催日時	場所	テーマ	講師
2016 年度 1 月 19 日(木) 9:40～	日進キャンパス 621 教室	「地域とコミュニティ」	名古屋産業大学 教授 石橋 健一氏
2017 年度 11 月 15 日(水) 9:50～	日進キャンパス 621 教室	「顔とこころ – 笑顔と百楽 – 」	幻 一氏
2018 年度 12 月 5 日(水) 8:50～	名城前医療 キャンパス 合同教室	「東日本大震災から 学んだこと～被災地 の医療ボランティアへ のいざない～」	JA 愛知厚生連 江南厚生病院 副院長・救命救急センター長、救 急科代表部長 竹内 昭憲氏

Ⅲ. 2019年度の地域連携活動データ

1. 活動件数

活動分類 \ 連携先等			行政機関 (医療・保健機関を除く)		教育機関		医療・保健機関	企業	NPO等	専門職業人	一般市民	その他	計
			日進市	その他	大学	幼・小・中・高、等							
連携協定	0	包括的連携協定等		1			1						2
研究連携	1-1	共同研究・受託研究等			1			1					2
	1-2	コンサルタント・技術指導等		1									1
	1-3	各種審議会・委員会等への参画	10	40			4						54
	1-4	教員の講師派遣	1	85	2	30	10	2	4	1		10	145
	1-5	その他	2	4	2	2	2	1	1		2		16
研究・教育連携	2-1	協同プロジェクト(商品開発・プロモーション等)	5	3			3	7				1	19
	2-2	地域課題解決・地域行事協力		2									2
	2-3	産官学協同研究センターの協同プロジェクト	2	4				5					11
	2-4	その他(研究・教育連携)	3	1									4
教育連携	3-1	社会人教育(公開講座・生涯学習含む)	2		2							2	6
	3-2	職業人教育(寄附講座含む)					8			1		1	10
	3-3	地域人材の育成			3								3
	3-4	幼・小・中・高生教育				10							10
	3-5	授業に関連したボランティア(単位付与)			1	1						1	3
	3-6	SLC経由のボランティア	9	12			1		2			6	30
	3-7	その他のボランティア	1	2			2					2	7
その他の連携等	4	施設開放など		1	1	1		1					4
合 計													329

2. 活動一覧

0. 協定

番号	内 容	所属	代表者	相手先	期日
1	包括的連携協定の締結	大学	杉浦康夫	東名古屋医師会医療介護総合研究センター	2019年10月16日
2	名古屋商工会議所との連携・協力に関する協定	大学	杉浦康夫	名古屋商工会議所	2015年11月25日～ 2020年11月24日

1-1. 共同研究・受託研究等

番号	組織名	内 容	所 属	氏 名	期 間
1	ホンザキ株式会社	電解水による食材および厨房環境の洗浄殺菌効果に関する研究	管理栄養学科	岸本満	2019年4月～ 2020年3月
2	山形大学	米由来タンパク質の特性評価	管理栄養学科	山田千佳子	2019年9月～ 2020年8月

1-2. コンサルタント・技術指導等

番号	組織名	内 容	所 属	氏 名	期 間
1	所沢市	通級指導室 臨床・研究アドバイザー	子どもケア学科	今井正司	2010年

1-3. 各種審議会・委員会等への参画

番号	組織名	審議会委員等の名称	所 属	氏 名	任 期
1	日進市	日進市行政改革推進委員会委員	副学長	恒川孝司	
2	愛知県保険医局	食生活改善支援事業検討会議	管理栄養学科	安達内美子	2019年度～
3	日進市産業振興課	日進市食育推進委員会	管理栄養学科	安達内美子	2013年10月～
4	長久手市	長久手市食育推進支援会議	管理栄養学科	安達内美子	2017年3月～
5	愛知県教育委員会	愛知県産業教育審議会	管理栄養学科	池田彩子	
6	日進市こども課	日進市保育施設等事故検証委員会	管理栄養学科	和泉秀彦	
7	名古屋地域環境対策部公害保険課	乳幼児アレルギー実態把握等懇談会	管理栄養学科	榎村春江	
8	名古屋市保健所	名古屋市食品衛生自主管理認定推進懇談会 構成員	管理栄養学科	岸本満	
9	名古屋市教育委員会	学校給食調理委託に係る業者選定懇談会	管理栄養学科	岸本満	
10	豊田市	豊田特別支援学校調理場改築整備事業事業者選定委員会 委員	管理栄養学科	高田尚美	
11	豊橋市	豊橋市新学校給食共同調理場(仮称)整備等事業新採委員会 委員	管理栄養学科	高田尚美	
12	岡崎市教育委員会	岡崎市献立作成委員会 委員	管理栄養学科	高田尚美	

13	公益財団法人 愛知県学校給食会	公益財団法人愛知県学校給食会 評議員	管理栄養学科	塚原丘美	2016年度～
14	瀬戸旭在宅医療介護連携推進 協議会	瀬戸旭在宅医療介護連携推進協議会 委員	管理栄養学科	塚原丘美	2015年度～
15	東名古屋医師会	在宅医療・介護連携支援センター連絡協議会 委員	管理栄養学科	塚原丘美	2018年度～
16	日進市教育委員会	日進市美術展覧会「2019日進展」審査員	映像メディア学 科	村上将城	
17	名古屋市	ロボット・AI・IoT等先進技術の実証に関する意見 聴取会構成員	ファッション造 形学科	内田君子	
18	日進市こども課	日進市保育運営協議会 委員	子どもケア学科	石垣儀郎	2018年度～
19	名古屋市教育委員会	名古屋市立高等学校キャリア教育推進支援委員	子どもケア学科	石垣儀郎	2014年度～
20	日進市	にぎわい交流館運営協議会委員	子どもケア学科	石原貴代	2015年度～
21	所沢市教育委員会	所沢市特別支援教育専門家チーム委員会 委員	子どもケア学科	今井正司	2009年度～
22	愛知県教育委員会	愛知県教科用図書選定審議会 委員	子どもケア学科	大原榮子	2017年度～
23	東海市教育委員会	東海市不登校対策協議会	子どもケア学科	大原榮子	1993年度～
24	東海市教育委員会	東海市子どものいじめ等対策協議会	子どもケア学科	大原榮子	1993年度～
25	東海市教育委員会	東海市ひきこもり支援連携委員会	子どもケア学科	大原榮子	2009年度～
26	愛知県教育委員会	愛知県教科用図書採択地区適正規模化検討会 議 委員	子どもケア学科	大原榮子	2017年度～
27	東京都教育委員会	東京都特別支援教育就学支援委員会 委員	子どもケア学科	黒田美保	2016年度～
28	豊田市教育委員会	豊田市教育特区学校審議会 委員	子どもケア学科	佐藤洋一	2016年度～
29	愛知県教育委員会	愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会委 員	子どもケア学科	佐藤洋一	2013年度～
30	愛知県教育委員会	愛知県学力向上推進委員会 委員長	子どもケア学科	佐藤洋一	2014年度～
31	安城市教育委員会	安城市いじめ問題対策委委員会 委員	子どもケア学科	佐藤洋一	2017年度～
32	豊田市教育委員会	第4次豊田市教育行政計画に係る基礎調査及び 計画策定業務委託プロポーザル選考委員	子どもケア学科	佐藤洋一	2019年度～
33	名古屋市教育委員会	学校評議員(名古屋市立桜山中学校)	子どもケア学科	佐藤洋一	2014年度～
34	名古屋市教育委員会指導室	幼児教育アドバイザー 名古屋市幼児教育支援室研修資料作成委員会	子どもケア学科	津金美智子	2019年度～
35	名古屋市子ども青少年局	保育所等の公募に係る評価委員	子どもケア学科	津金美智子	2019年度～
36	日進市	日進市総合計画審議会	子どもケア学科	津金美智子	2018年度～
37	日進市	日進市子ども施策推進会議 副委員長	子どもケア学科	津金美智子	2016年度～

38	愛知県教育委員会義務教育課	愛知県幼児教育研究協議会 会長	子どもケア学科	津金美智子	2018年度～
39	名古屋市教育委員会	名古屋市子どもいきいき学校づくり推進会議委員	子どもケア学科	津金美智子	2019年度～
40	日進市こども課	日進市保育施設等事故検証委員会	子どもケア学科	西村美佳	2017年度～
41	大府市教育委員会	大府市適応指導推進会議	子どもケア学科	浜田恵	2016年度～
42	愛知県教育委員会	家庭教育企画委員会 副委員長	子どもケア学科	渡辺桜	2012年度～ ※副委員長は2019年度～
43	知多市こども未来部	知多市全体的な計画の見直し検討会	子どもケア学科	渡辺桜	2019年度～
44	名古屋市健康福祉局感染症対策室	名古屋市感染症診査協議会会長・部会長	看護学科	五十里明	2019年度～
45	愛知県	愛知県健康づくり推進協議会会長	看護学科	五十里明	2013年度～
46	愛知県国民健康保険団体連合会	支援・評価委員会委員長	看護学科	五十里明	2014年度～
47	日進市地域福祉課	日進市地域包括ケア検討会議会長	看護学科	五十里明	2015年度～
48	愛知県	愛知県アルコール健康障害対策推進会議会長	看護学科	五十里明	2018年度～
49	千葉県	千葉県障害者施策推進協議会委員長	看護学科	石田路子	2018年度～
50	千葉県	障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり推進会議副座長	看護学科	石田路子	2018年度～
51	千葉県	千葉県障害者差別解消支援協議会委員	看護学科	石田路子	2016年度～
52	豊田市	豊田市男女共同参画推進懇話会座長	看護学科	石田路子	2012年度～
53	名古屋市	大学政策推進委員会委員	看護学科	石田路子	2019年度～
54	愛西市	愛西市地域保健対策協議会 委員	看護学科	佐久間清美	2019年度～

1-4. 教員の講師派遣

番号	派遣先	講義等の内容	所属	氏名	日時
1	岐阜市立女子短期大学	IRの役割と実践事例 講師	副学長	恒川孝司	2019年9月
2	愛知県瀬戸保健所	令和元年度瀬戸保健所食生活改善支援事業者研修会 講師	管理栄養学科	安達内美子	2019年11月
3	愛知県豊川保健所	令和元年度豊川保健所食生活改善支援事業者研修会 講師	管理栄養学科	安達内美子	2019年12月
4	特定非営利活動法人アレルギー支援ネットワーク	講演会 講師	管理栄養学科	和泉秀彦	2019年5月～11月
5	愛知県新城保健所管内栄養士会	平成31年度 新城保健所管内栄養士会研修会 講師	管理栄養学科	和泉秀彦	2019年6月
6	豊川市	令和元年度安全衛生委員会が主催する健康づくり講演会 講師	管理栄養学科	和泉秀彦	2020年2月

7	名古屋市高年大学 鯉城学園	講座「食品の安全と衛生」 講師	管理栄養学科	伊藤勇貴	2020年1月
8	京都市保育連盟	平成31年度 食育研修会 講師	管理栄養学科	榎村春江	2019年7月
9	愛知県知多保健所管内栄養士会	第1回知多保健所管内栄養士会研修会 講師	管理栄養学科	榎村春江	2019年5月
10	特定非営利活動法人アレルギー支援ネットワーク	講演会 講師	管理栄養学科	榎村春江	2019年6月～11月
11	学校法人 自由ヶ丘学園	愛知県私立幼稚園PTA連合協議会千種支部研修会	管理栄養学科	榎村春江	2019年6月
12	学校法人 自由ヶ丘学園	子育てに関する公開講座	管理栄養学科	榎村春江	2019年9月
13	認定こども園サムエル広島こどもの園	給食研修会 講師	管理栄養学科	榎村春江	2019年8月
14	岐阜県東濃保健所	令和元年度食育指導者研修会 講師	管理栄養学科	榎村春江	2019年9月
15	名古屋市環境局	乳幼児アレルギー実態把握等懇談会 講師	管理栄養学科	榎村春江	2019年9月
16	岐阜県健康福祉部	令和元年度行政栄養士階層別研修 講師	管理栄養学科	川崎和彦	2020年2月
17	岐阜県西濃保健所	令和元年度西濃保健所管内食生活改善協議会総会 講師	管理栄養学科	川崎和彦	2020年5月
18	岐阜県東農保健所	令和元年度東農保健所東農西部食生活改善協議会総会 講師	管理栄養学科	川崎和彦	2020年5月
19	愛知県総合教育センター	令和元年度学校給食調理員等衛生管理研修会 講師	管理栄養学科	岸本満	2019年8月
20	愛知県教育委員会	令和元年度学校給食調理員等衛生管理研修会 講師	管理栄養学科	岸本満	2019年8月
21	愛知県瀬戸保健所	食の安全・安心タウンミーティング 講師	管理栄養学科	岸本満	2019年9月
22	愛知県市町村保健行政栄養士連絡協議会	研修会 講師「低栄養に伴うフレイルの予防・改善について」	管理栄養学科	下方浩史	2019年7月
23	静岡健康増進センター	公開講座 講師「食事で体の痛みを防ぐ」	管理栄養学科	下方浩史	2019年9月
24	宮崎県健康増進課	宮崎県市町村健康づくり推進員研修会 講師	管理栄養学科	下方浩史	2019年11月
25	豊橋市教育委員会	令和元年度 豊橋市教員免許状更新講習 講師	管理栄養学科	高田尚美	2019年7月
26	愛日地方・栄養教諭学校栄養職員研究会	学校における食育推進における研修会 講師	管理栄養学科	高田尚美	2019年5月
27	愛知県学校給食センター連絡協議会	衛生栄養講習会 講師	管理栄養学科	高田尚美	2019年7月
28	愛知県学校給食センター連絡協議会	事務職員研修会 講師	管理栄養学科	高田尚美	2019年7月
29	知多地方教育事務協議会	知多地区栄養教諭・学校栄養職員研修会 講師	管理栄養学科	高田尚美	2019年8月
30	公益社団法人 日本栄養士会	食物アレルギー基礎研修会 講師	管理栄養学科	高田尚美	2019年8月
31	岡崎市教育委員会	栄養教諭への献立作成研修 講師	管理栄養学科	高田尚美	2019年8月～2020年3月

32	西尾市教育研究会	学校栄養士部会授業研究会 講師	管理栄養学科	高田尚美	2019年10月
33	新城市小中学校長会	新城市小中学校長研修会 講師	管理栄養学科	高田尚美	2020年1月
34	みよし市教育委員会	みよし市栄養教諭研修会 講師	管理栄養学科	高田尚美	2020年2月
35	愛知県のアレルギー診療を考える会(2019年度アレルギー疾患対策都道府県拠点病院モデル事業)	愛知県のアレルギー診療を考える会 パネリスト	管理栄養学科	高田尚美	2020年2月
36	十六銀行くるる事務局	くるるセミナー 講師	管理栄養学科	塚原丘美	2019年11月
37	社会福祉法人 尾張旭市社会福祉協議会	令和元年度クッキングボランティア講座～家事場のちから～ 講師	管理栄養学科	塚原丘美	2020年1月
38	名古屋市教育委員会 生涯学習課	講座「食べることと健康を考える」	管理栄養学科	藤木理代	2019年6月
39	日本技術士会	講演会 講師	管理栄養学科	間崎剛	2019年8月
40	東浦町生路小学校	現職教育の講師	子どもケア学科	浅田謙司	2019年7月、10月
41	東浦町東浦中学校	現職教育の講師	子どもケア学科	浅田謙司	2020年1月
42	静岡県高等学校養護教育研究会	令和元年度静岡県高等学校養護教育研究会第1回浜松ブロック研修会 講師	子どもケア学科	石原貴代	2019年7月
43	袋井市教育委員会	子ども支援研修会 講師	子どもケア学科	今井正司	2019年11月
44	古河市	児童発達支援講演会	子どもケア学科	今井正司	2019年10月
45	岩倉市	市民公開講座「自分と人をやさしくつなぐマインドフルネス」	子どもケア学科	今井正司	2019年5月、6月、7月
46	発達協会	夏の研修会「発達障害の支援と連動した神経心理学的アセスメント」	子どもケア学科	今井正司	2019年8月
47	発達協会	夏の研修会「注意の働きに偏りがある子への配慮と指導」	子どもケア学科	今井正司	2019年9月
48	東海市社会福祉協議会	家族会・研修会 講師	子どもケア学科	大原榮子	2019年4月、5月、2020年2月
49	福岡県小中学校養護教員研究会	「養護教諭が行う健康相談とは」講師	子どもケア学科	大原榮子	2019年6月
50	みよし市教育研究会	令和元年度みよし市教育研究大会研修会 講師	子どもケア学科	大原榮子	2019年7月、8月
51	東海市	「子どもの自立と未来を語る会」 講師	子どもケア学科	大原榮子	2019年7月
52	館林市	令和元年度館林市発達障がい者支援保健師研修会	子どもケア学科	黒田美保	2020年2月
53	東京大学医学部附属病院	「職域・地域架橋型一価値に基づく支援者育成」講師	子どもケア学科	黒田美保	2019年5月
54	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター	「自閉スペクトラム症診断のゴールド・スタンダード ADOS-2を学ぶ」	子どもケア学科	黒田美保	2019年7月
55	東京都あきる野学園	適応行動とVineland-II 適応行動尺度	子どもケア学科	黒田美保	2019年7月
56	特定非営利活動法人アスペ・エルデの会	「発達障害児のための合宿による海洋活動体験と発達支援開発プログラム事業」	子どもケア学科	黒田美保	2019年8月

57	国立障がい者リハビリテーションセンター	令和元年度発達障害者地域支援マネジャー研修会(応用研修) 講師	子どもケア学科	黒田美保	2019年11月
58	埼玉県発達障害総合支援センター	「発達障害アセスメント研修②応用編PARS-TR概論」講師	子どもケア学科	黒田美保	2019年10月
59	北海道大学医学部附属病院	自閉スペクトラム症に関するADOS-2並びにADI-Rによる診断・評価に関する検討会 講師	子どもケア学科	黒田美保	2019年10月
60	愛知県総合教育センター	愛知県小中学校10年経験者研修会(国語科)講師	子どもケア学科	佐藤洋一	2019年8月
61	豊田市教育委員会	豊田市研究指定校講師(梅坪台中学校)	子どもケア学科	佐藤洋一	2019年11月
62	西尾市立一色東部小学校	研究協議会 講師	子どもケア学科	佐藤洋一	2019年6月
63	稲沢市現職教育委員会	稲沢市教育研究集会 講師	子どもケア学科	佐藤洋一	2019年10月
64	安城市立安城北中学校	校内授業研究会 講師	子どもケア学科	佐藤洋一	2019年11月
65	西尾市立一色東部小学校	校内現職教育 講師	子どもケア学科	佐藤洋一	2019年12月
66	岡崎市保育園連絡協議会	岡崎市保育園連絡協議会保育士研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年6月
67	愛知県教育委員会義務教育課	令和元年第1回愛知県幼児教育研究協議会	子どもケア学科	津金美智子	2019年6月、 2020年1月
68	島根県教育庁教育指導課	令和元年度幼稚園理解推進事業研究協議会 幼児教育推進研修 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年8月
69	富山県総合教育センター	2019年度園長等運営管理協議会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年5月
70	海津市保育協会	保育者研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年4月
71	徳島県教育委員会学校教育課	平成31年度第1回幼稚園長等運営管理協議会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年5月
72	知多郡保育事業協会	平成31年度知多郡保育事業協会現任保育士 研修会 I	子どもケア学科	津金美智子	2019年7月
73	高知県教育センター	平成31年度保幼小接続に関する研修 I 期 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年5月
74	豊橋保育協会	研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年9月
75	大垣市保育者等研究推進委員会	大垣市保育実践研究会	子どもケア学科	津金美智子	2019年5月
76	一宮市子ども部	保育士研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年6月
77	一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会	研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年8月
78	広島市教育センター	幼稚園主任研修 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年6月
79	加茂保育研究協議会	加茂保育研究協議会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年6月
80	高島市こども未来部子育て支援課	高島市公私立保育園・幼稚園・認定こども園等職員 研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年6月
81	知多市役所こども未来部幼児保育課	知多市キャリアアップ保育士・教諭研修講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年7月

82	小牧市子ども未来部保育課	保育士研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2020年2月
83	岐阜県教育委員会 学校支援課	令和元年度園長等運営管理協議会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年9月
84	高槻市教育委員会	令和元年度高槻市夏季教育セミナー 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年7月
85	習志野市	令和元年度第4回幼保合同特別研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年8月
86	香川県幼児教育研究会	令和元年度香川県幼児教育研究発表会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年10月
87	岐阜県保育研究協議会	2019年度保育所保育士等研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年10月
88	西宮市教育委員会	令和元年度道德教育 研修講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年9月
89	大分県教育庁幼児教育センター	令和元年度幼稚園教育課程大分県協議会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年10月
90	鳥取県教育センター	教職員研修 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年12月
91	尼崎市立小園幼稚園	尼崎市立幼稚園教育研究会 教員研修 講師	子どもケア学科	津金美智子	2020年1月
92	岐阜市教育委員会幼児教育課	令和元年度 岐阜市幼保小接続実践研究会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年10月
93	鳥取県教育委員会	鳥取県幼児教育フォーラム 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年12月
94	静岡市子ども未来局	静岡市立こども園園長研修会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2020年1月
95	西尾市立鶴城幼稚園	令和元年度道德教育 研修講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年7月、11月、 2020年1月
96	滋賀県東近江市幼児教育センター	幼保小連携協議会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年8月
97	岐阜市教育委員会幼児教育課	岐阜市立岐阜東幼稚園 研究会 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年11月
98	志摩市教育委員会	令和元年度志摩市就学前教育研修講座 講師	子どもケア学科	津金美智子	2019年12月
99	和歌山市立教育研究所	令和元年度専門研修講座 講師	子どもケア学科	津金美智子	2020年2月
100	青年海外協力協会	青年海外協力隊2019年度2次隊 地域看護研修 講師	子どもケア学科	八田早恵子	2019年9月
101	一般社団法人沖縄県私立保育園連盟	保育保健キャリアアップ研修会 講師	子どもケア学科	八田早恵子	2019年11月
102	青年海外協力協会	青年海外協力隊2019年度3次隊 地域看護研修 講師	子どもケア学科	八田早恵子	2019年12月
103	九州大学こころとそだちの相談室	2019年度「自閉症スペクトラム障害のアセスメントと支援」研修会 講師	子どもケア学科	浜田恵	2019年6月
104	大府市福祉子ども部保育課	令和元年度子育て支援講座 講師	子どもケア学科	浜田恵	2019年5月
105	岐阜県発達障害者支援センター	令和元年度岐阜県発達障害者支援センター支援者向け研修 講師	子どもケア学科	浜田恵	2019年7月
106	国立障害者リハビリテーションセンター	令和元年度巡回支援専門員研修会 講師	子どもケア学科	浜田恵	2019年10月

107	日進市	令和元年度ブックスタートボランティア研修会 講師	子どもケア学科	福定美保子	2019年9月
108	愛知県総合教育センター	令和元年度小・中学校10年経験者研修 講師	子どもケア学科	松崎利美	2019年8月
109	刈谷市立依佐美中学校	主題全体会 講師	子どもケア学科	松崎利美	2019年6月
110	愛媛県四国中央市教育委員会	四国中央市教務・研修・学力向上推進主任研修 会 講演	子どもケア学科	松崎利美	2019年8月
111	富山県南砺市立城端中学校	校内研修会	子どもケア学科	松崎利美	2019年8月、11月
112	徳島県阿南市立阿南第一中学校	学力向上校内研修 講師	子どもケア学科	松崎利美	2019年8月
113	岡崎市立矢作北小学校	教育講演会 講師	子どもケア学科	松崎利美	2019年10月
114	栄養教諭研究協議会	令和元年度第2回 食に関する指導研修会 講師	子どもケア学科	松崎利美	2020年2月
115	津島市立高台寺小学校	「スクールミュージアム」におけるギャラリートークお よび現職教研美術教育部会指導法研究会講師	子どもケア学科	水谷誠孝	2019年11月～12月
116	西尾市立鶴城幼稚園	令和元年度西尾市家庭教育講座 講師	子どもケア学科	森 英子	2019年7月
117	豊田市立野見小学校	「メディアコントロールについて考えよう～心と体い きいきキャンペーン～」 講師	子どもケア学科	森 英子	2019年10月
118	東五城子育て支援センター	育児講座への講師派遣	子どもケア学科	渡辺桜	2019年6月
119	東浦町役場 健康福祉部	平成31年度東浦町保育士研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年5月、8月
120	知多市役所こども未来部幼児保 育課	知多市未満児研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年5月
121	社会福祉法人済聖会	職員研修 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年5月
122	知立市教育委員会	平成31年度知立市子育てネットワークー養成講 座 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年7月、10月
123	安城市	保育者全体研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年6月
124	刈谷市	きょうだい仲良く育つコツ 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年5月～ 2020年2月
125	高浜市こども未来部	平成31年度高浜市幼稚園教諭研修 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年6月、12月
126	名古屋市中島保育園	平成31年度エリア支援保育所事業研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年6月、8月
127	半田市 健康子ども部	園内研修及び公開保育研修 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年7月、12月
128	豊田市高嶺こども園	園内研修 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年6月、12月
129	愛知県教育委員会	「親の育ち」家庭教育支援者スキルアップ講座 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年9月、10月
130	東海市	東海市立保育園職員研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年6月
131	豊田市立中山こども園	園内研究講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年6月、10月

132	刈谷市	刈谷市保育園職員 研修	子どもケア学科	渡辺桜	2019年6月、7月
133	弥富市	市立保育園 実践研修会	子どもケア学科	渡辺桜	2019年8月
134	武豊町子育て支援課	武豊町保育士研修会	子どもケア学科	渡辺桜	2019年7月
135	株式会社 中日新聞社	「保育のお仕事就職フェスティバル」セミナー講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年7月
136	みよし市 子育て支援課	講演「主体性を育む保育とは」	子どもケア学科	渡辺桜	2019年8月
137	刈谷市	幼稚園・保育園臨時職員研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年9月
138	東郷町	令和元年度東郷町立保育園職員研修計画 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年5月～ 2020年1月
139	清須市子育て支援課	令和元年度清須市内保育士研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年11月、12月
140	愛知県指導保育士連絡協議会	第2回全員研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年10月
141	東海市立大田保育園自主研究グループ	「子どもが遊びだしたくなるような環境づくりと援助」	子どもケア学科	渡辺桜	2019年10月
142	社会福祉法人済聖会 しんほそぐち保育園	職員研修 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年11月
143	社会福祉法人済聖会 ブライト保育園	園内研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年11月
144	稲沢市	公私立保育士研修会 講師	子どもケア学科	渡辺桜	2019年12月
145	沖繩県私立保育園連盟	保育保健キャリアアップ研修会 講師	看護学科	金城やすこ	2019年11月

1-5. その他の研究連携

番号	連携先	連携の内容	所属	氏名	日時
1	日進絆子ども食堂	卒業研究における研究協力	管理栄養学科	安達内美子	2018年度～
2	愛知江南短期大学附属幼稚園	修士研究における調査協力	管理栄養学科	安達内美子	2019年度
3	名古屋市衛生研究所 疫学情報部	厚生労働行政推進調査事業費補助金 難治性疾患等政策研究事業 スモンに関する調査研究班 研究協力	管理栄養学科	伊藤勇貴	2010年度～
4	医療法人大医会	名古屋学芸大学と医療法人大医会との連携プロジェクトチーム会議	地域連携推進研究機構長	岸本満	2019年度～
5	地域在住高齢者*	健康栄養研究所研究費における研究*	管理栄養学科	岡田希和子	2016年度～
6	地域在住高齢者*	健康栄養研究所研究費における研究*	管理栄養学科	岡田希和子	2019年度～
7	日進市	健康栄養研究所研究費における研究*	子どもケア学科	釜賀雅史	2012年度～
8	社会福祉法人太陽 多機能型事業所あおぞら	強度行動障害のある子どもへの支援～支援者との関係性の変容過程に着目して～	子どもケア学科	渡辺 桜	2018年度～
9	至学館大学附属幼稚園	共同研究「5歳児の協同的な学びの研究」	子どもケア学科	想厨子伸子	2017年度～

10	津島市立高台寺小学校	「スクールミュージアム」におけるギャラリートークおよび現職教研美術教育部会指導法研究会	子どもケア学科	水谷誠孝	2019年11月～12月
11	三重県津市健康福祉部	地域包括ケア・医療介護連携システム推進事業研究会	看護学科	石田路子	2018年度～
12	奈良県立医科大学	窓側病床への入院が院内転倒予防に及ぼす影響―多施設前向きコホート研究―	看護学科	岩本淳子	2016年度～
13	三重県いなべ総合病院	窓側病床への入院が院内転倒予防に及ぼす影響―多施設前向きコホート研究―	看護学科	岩本淳子	2016年度～
14	長久手市役所 NPOつづら他	介護予防事業が利用者・支援者の日常生活に与える影響―総合事業参加者の介護予防に関連する要因の分析―	看護学科	鈴木岸子	2018年度～
15	名古屋療養サービス事業団、ハートサービス近藤	ケアマネの認知症の人への意思決定支援に関連する要因―主任ケアマネジャーの語りからの分析―	看護学科	鈴木岸子	2019年度～
16	岐阜市社会福祉協議会、千種区社会福祉協議会他	地域における介護予防・日常生活支援総合事業推進に必要な生活支援コーディネーターの知識・技術・能力および支援の在り方	看護学科	鈴木岸子	2019年度～

2-1. 協同プロジェクト(商品開発、プロモーション等)

番号	連携先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	アイモール三好	母の日/父の日イベント	管理栄養学科 デザイン学科	安達内美子 塚原丘美 井垣理史	2015年度～
2	日進市健康課	若年成人に対する食育推進のための「ヘルピー健康だより」作成	管理栄養学科 デザイン学科	安達内美子 富安由紀子	2016年度～
3	愛知県赤十字血液センター 献血ルーム ゲートタワー26	献血ルームゲートタワー26&名古屋学芸大学コラボレシビ「血色素(ヘモグロビン)不足改善レシビ」作成	管理栄養学科	南 亜紀	2018年～
4	日進市市民協働課	幼児向けESD事業「お話絵本と親子で楽しみ音楽とランチの会―野菜をおいしく食べられるように―」	ヒューマンケア学部		2019年度
5	日進市市民協働課	くるりんバスの啓発ツール(キャラクター、バスカード)の創出	デザイン学科		2019年度
6	日進市健康課	大学生の朝食イメージをアップする「朝食フォトコンテスト」	管理栄養学科	安達内美子	2019年7月～12月
7	トヨタ自動車ラグビー部(ヴェルブリッツ)	トヨタラグビー部との地域連携(デザイン、映像、管理栄養)	デザイン学科	大島誠、 富安由紀子	2019年9月～ 2020年11月
8	株式会社 テクノアートリサーチ	企業デザイナーの協力による学生の課題解決、技術力支援	デザイン学科	大島誠	2019年9月～ 2020年2月
9	イオンモール長久手	わくわく・もりもり食の学校	管理栄養学科	高田尚美、 南亜紀、 安達内美子、 楳村春江、 立花詠子	2019年10月～ 2020年2月
10	熊野市	熊野産木材を使ったおもちゃ制作	デザイン学科	平光無門	2019年10月25日
11	あいち尾東農協	一坪農園サークルによる模擬店の出店	管理栄養学科	山田千佳子	2019年11月
12	リブラささしま、グランドダイア、医療法人尚豊会	世界糖尿病デーイベント	管理栄養学科	岡田希和子	2019年11月16日
13	サカエマチ株式会社、6大学	クリスタル広場のLEDディスプレイ映像投影	映像メディア学科	齋藤正和	2019年11月29日～ 12月13日
14	タキヒヨー株式会社	学生と考えるパンツのシルエット	ファッション造形学科	炭釜啓人	2019年12月～

15	日進市秘書広報課	シビックパワーバトルどまんなか愛知2020に参加、プレゼンテーションを行う	メディア造形学部		2019年12月14日
16	株式会社八百彦本店	スマートミール弁当の開発	管理栄養学科	塚原丘美	2020年2月
17	刈谷市・刈谷市教育委員会・刈谷市総合文化センター	刈谷市総合文化センターギャラリー活性化&創造活動支援事業「add展2020」	映像メディア学科	小笠原則彰、伏木 啓、齋藤正和	2020年2月13日～2月16日
18	かすがい市民文化財団	歌人・鈴掛真×名古屋学芸大学映像メディア学科協働プロジェクト展「言葉では伝えきれない感情に 耳をすまして見えてきたもの」	映像メディア学科	小笠原則彰、伏木 啓、岩野一郎、村上将城、土屋花琳、松浦拓也	2020年2月9日～2月27日
19	日本赤十字社 東海北陸ブロック血液センター	BloodCafe 16号 レシピ記事掲載	管理栄養学科	南 亜紀	2020年3月

2-2. 地域課題解決・地域行事協力

番号	連携先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	大府市	『大府市民栄誉賞(吉田沙保里様)』記念品(平面表現作品「百獣の王とクチナシ」)の制作	子どもケア学科	水谷誠孝	2019年5月28日
2	豊田市	第24回男女共同参画全国都市会議inとよた「どう生きる? 人生100年時代」のコーディネーター	看護学科	石田路子	2019年6月21・22日

2-3. 産官学協同研究センターの協同プロジェクト

番号	連携先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	尾張旭市 (企画部 企画課 政策調整係)	「すくすくのびのび 尾張旭市」定住促進PRポスターのフォトブック制作	デザイン学科	梶田 渉	2018年4月19日～2019年6月1日
2	尾張旭市 (企画部 企画課 政策調整係)	「すくすくのびのび 尾張旭市」定住促進PRポスターの特大大サイズバナーポスターを愛知県森林公園内に掲出	デザイン学科	梶田 渉	2019年6月～
3	有限会社五ッ橋製菓 (名古屋商工会議所会員企業)	「いろいろ」の新商品開発におけるネーミングとパッケージデザイン	デザイン学科	尹成濟	2018年9月18日～2019年10月9日
4	レゴランド・ジャパン株式会社	レゴランド内での販売する商品サービス・販売方法・キャンペーンの企画開発・デザイン制作	デザイン学科	梶田 渉 尹成濟	2019年4月17日～2019年10月30日
5	尾張旭市 (企画部 企画課 政策調整係)	市制50周年記念ロゴマーク制作	デザイン学科	梶田 渉	2019年7月10日～11月18日
6	日進市 (教育委員会 生涯学習課 市史文化財係)	旧市川家住宅 築250周年記念イベント「築250年 旧市川家物語」	デザイン学科 映像メディア学科	梶田 渉 齋藤正和	2019年10月26日
7	プライムツリー赤池	体験型展示イベント「ミルミルミエール」(2017年度より3回目)	デザイン学科	尹成濟	2019年11月30日～12月1日
8	尾張旭市 (企画部 企画課 政策調整係)	「尾張旭市で子育てをすることの魅力」を伝えるPR動画」企画制作	映像メディア学科	渡部眞 柿沼岳志	2019年4月16日～2020年3月31日
9	株式会社ドリーム	「続けられるダイエットグッズ」「楽しく、明るくなれるストレス発散グッズ」新商品開発	デザイン学科	梶田 渉 黄ロビン	2019年4月16日～2019年8月1日
10	日進市 (教育委員会 生涯学習課 市史文化財係)	「日進市生涯学習情報誌 PLAN」の表紙デザイン制作(年3回)「日進市家庭教育推進委員会合同情報誌 かすい」の表紙デザイン(年1回)	デザイン学科	梶田 渉	2007年～
11	株式会社岩月屋 (名古屋商工会議所会員企業)	オーガニック新商品「Orimii(オリミー)」の開発	デザイン学科	富安由紀子	2017年6月6日～2019年2月12日

2-4. その他(研究・教育連携)

番号	連携先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	日進市地域福祉課	介護予防・日常生活支援総合事業 通所型サービスC 受託事業	管理栄養学科	伊藤勇貴	2017年度～
2	日進市秘書広報課	「広報にっしん」(健康は食にあり)記事掲載	管理栄養学科	安達内美子	2019年度
3	日進市地域福祉課、スギ薬局	にっしん健康つどいの場づくりプロジェクト	管理栄養学科	伊藤勇貴	2019年9月～ 2020年3月
4	尾張旭市本地ヶ原児童館	こどもまつり(2020年5月開催)の企画	子どもケア学科	渡辺 桜、 学生ボランティア ア	2019年度～

3-1. 社会人教育(公開講座・生涯教育含む)

番号	対 象	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	一般社会人	名古屋学芸大学公開講座(前期) 「健康寿命を延ばす」	管理栄養学科	岡田希和子	2019年7月6日
2	一般社会人	食品安全マネジメントシステム研修会	管理栄養学科	岸本満	2020年2月17日
3	日進市市民	日進市市民教室「ウォーキングで健康増進！」	管理栄養学科	藤木理代	2019年5月～2020年3月 (計10回)
4	一般社会人	朝日カルチャーセンター「遺伝子に合った健康法 を発見」、「腸内フローラ検査で知る健康な体」、 「ミトコンドリアからたどる自分のルーツ」	管理栄養学科	藤木理代	2019年4月～2020年1月 (計20回)
5	一般社会人	日進市大学連携講座 「映画音楽カミクダキ」	映像メディア 学科	周防義和	2019年11月18日、 11月29日、12月6日
6	一般社会人	名古屋学芸大学公開講座(後期) 「女性の病気と健康維持」	看護学科	菅沼信彦	2019年12月7日

3-2. 職業人教育(寄附講座含む)

番号	対 象	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	養護教諭、一般教諭、歯科医師 等	JKYBライフスキル教育研究会	子どもケア学科	近森けいこ	2020年2月22日
2	管理栄養士	実務者のための栄養管理プロセス(臨床栄養学) 合宿 ー栄養管理の先を考えてみるー	名古屋学芸大学 健康・栄養研究所	塚原丘美 立花詠子	2020年2月1日
3	看護師	なごやナースキャリアセンター実習指導者講習会 「看護の機能と役割」講師	看護学科	浅野妙子	2017年～
4	看護師	公益社団法人静岡県看護協会認定看護管理者 教育課程セカンドレベル「ヘルスケアシステム論 II」講師	看護学科	大原まゆみ	2019年10月
5	看護師	国立病院機構 東海北陸グループ実習指導者講 習会 講師	看護学科	大西幸恵	2019年9月
6	看護師	東京慈恵会教務主任養成講習会 講師	看護学科	平賀元美	2019年6月
7	看護師	国立病院機構 東海北陸グループ助産師・看護 師実習指導者講習会 講師	看護学科	平賀元美	2019年8月

8	看護師	愛知県看護専任教員養成講習会 講師	看護学科	平賀元美	2019年9月
9	看護師	東海北陸ブロック看護実習指導者講習会 講師	看護学科	佐久間清美	2019年9月
10	保健師	愛知県岡崎市保健師人材育成研修会 講師	看護学科	佐久間清美	2019年11月

3-3. 地域人材の育成

番号	対 象	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	栄養教諭	栄養教諭5年経験者研修	管理栄養学科	岸本満	2019年8月
2	栄養教諭、養護教諭	教員免許状更新講習	管理栄養学科	山田千佳子	2019年8月
3	養護教諭	名古屋学芸大学リカレント教育講座	子どもケア学科	大原榮子	2019年8月

3-4. 幼・小・中・高生教育

番号	対 象	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	子どもとその保護者	学校給食フェア	管理栄養学科	高田尚美	2019年8月29日
2	地域の親子	保育・教職実践演習での実践	子どもケア学科	想厨子伸子・渡辺 桜	2013年～
3	刈谷市立小学校	音楽の授業での響き合いの実践	子どもケア学科	渡辺 桜	2016年～
4	0～2歳児の未就園児の親子	親子であそぼう会	子どもケアセンター	鋤柄則子 センター保育士	2019年11月6日,12月/18日,2020年/1月29日
5	0歳、1歳児の親子	親子のひろば	子どもケアセンター	津金美智子	2019年度前期、後期
6	6ヵ月～4歳未満の未就園児と保護者、出産予定者	親力アップセミナー	子どもケアセンター	都築一夫 西村美佳 大島光代 水谷誠孝 黒田美保 藤井正子 安達内美子 水嶋丸美	2019年度
7	児童	子ども大学日進	子どもケア学科	石井鈴一	2019年8月19日
8	公立高等学校生徒	高大連携模擬授業	管理栄養学科、ファッション造形学科、看護学科	高田尚美 内田和邦 金城やす子 神谷智子	2019年8月20日
9	幼稚園児	幼稚園児の視力検査	子どもケア学科	大原榮子	2019年9月6日
10	子どもとその保護者	遊びの交流会	子どもケアセンター	津金美智子	2019年10月26日

3-5. 授業に関連したボランティア

番号	実施先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	竹の山小学校	竹の山小学校ボランティア	管理栄養学科	塚原丘美	2019年10月～
2	ボランティア実施組織	ボランティア演習	子どもケア学科	石原貴代	2018年度～
3	名城大学女子駅伝部	名城大学女子駅伝部への食事支援	管理栄養学科	南 亜紀	2017年度～

3-6. SLセンター経由のボランティア

番号	実施先	内 容	参加人数	日 時
1	スペシャルオリンピックス日本・愛知	スペシャルオリンピックス愛知・日本 第9回 ジョギングフェスティバル	2	2019年4月25日～ 2019年4月28日
2	ぎふ清流ハーフマラソンボランティア事務局	ぎふ清流ハーフマラソンボランティア	2	2019年4月25日～ 2019年4月28日
3	やろまいか！愛・地クリーン作戦実行委員会	やろまいか！愛・地クリーン作戦！	6	2019年5月26日
4	愛知県教育委員会生涯学習課	愛知県・ホームフレンド	1	2019年6月～ 2020年3月
5	長久手市社会福祉協議会	西小地区社協子どもサロン もりもり元気食	12	2019年7月30日、31日、 8月1日、8月6日、8月24日
6	復興庁	2019復興・創生インターン夏期	2	2019年8月～9月
7	長久手市社会福祉協議会	もりもり元気食堂	1	2019年8月31日
8	日進市危機管理課	南小学校区防災訓練	7	2019年6月 8日
9	日進市にぎわい交流館	にっしんわいわいフェスティバル出展	10	2019年7月 6日
10	日進市にぎわい交流館	にっしんわいわいフェスティバルボランティアスタッフ	10	2019年7月 6日
11	日進市市民協働課	にっしんわいわいフェスティバル実行委員会 実行委員	2	2019年7月7日
12	岡崎市社会福祉協議会	おいでん屋 子ども食堂 夏休みおいでん	2	2019年7月23日
13	名東区社会福祉協議会、名東区手をつなぐ育成会	名東区ふれあい交流会	1	2019年8月 2日～ 2019年8月 3日
14	日進市生涯学習課	キッズチャレンジ	4	2019年8月 3日
15	長久手市社会福祉協議会	夏休みこどもの学習援助ボランティア	5	8月8日、20日、30日
16	岡崎市社会福祉協議会	ココカラ 子ども食堂	1	2019年8月15日ほか
17	長久手市ボランティアセンター	鯨レレ万博(音楽フェスティバル)運営	1	2019年8月 16日

18	日進市社会福祉会館	福祉会館「子どもまつり」	2	2019年9月7日、14日、21日、10月5日
19	日進市産業振興課	にっしん夢まつり実行委員会	5	2019年9月15日
20	社会福祉法人 瀬戸中央会 特別養護老人ホームつばき	特別養護老人ホームつばき つばき祭り	7	2019年9月20日
21	愛知県医療療育総合センター	愛知県医療療育総合センターふれあいフェスティバル	1	2019年9月29日
22	やろまいか！愛・地クリーン作戦実行委員会	やろまいか！愛・地クリーン作戦！	9	2019年10月20日、12月1日、12月15日
23	社会福祉法人 愛知育児院	愛知育児院「ふれあいまつり」	1	2019年10月26日
24	スペシャルオリンピックス日本・愛知	2019年第11回スペシャルオリンピックス日本・愛知 夏季地区大会	7	2019年10月27日
25	社会福祉法人きまもり会	第14回あゆみまつり	4	2019年10月27日
26	日進市にぎわい交流館	日進市絆子ども食堂	7	2019年11月10日、12月8日
27	日進市市民協働課	第20回にっしん市民まつり大学ブース出展 健康とあそびのバンブーヒル	8	2019年11月17日
28	G20愛知・名古屋外務大臣会合推進協議会	G 20 愛知・名古屋外務大臣会合 大学生語学 ボランティア	1	2019年11月22日～23日
29	おいでんネットワーク 岡崎市社会福祉協議会	子ども食堂開催日の子どもの見守り	2	2020年1月28日
30	復興庁	2019復興・創生インターン春期	2	2020年2月～3月

3-7. その他のボランティア

番号	実施先	内 容	所 属	参加者	日 時
1	日進市アレルギーの会	食物アレルギー対応クッキングセミナー	管理栄養学科	日進市アレルギーの会(ふちヴェール日進) 14名	2019年11月
2	藤田医科大学病院	藤田医科大学病院 サマーボランティア	子どもケア学科		2019年8月
3	長久手市	長久手市「警固祭り」ポスター作成	デザイン学科	川本凜(学生)	2019年10月
4	名古屋市・国立病院機構名古屋医療センター	無料HIV検査会	看護学科	32	2019年5月25・26日
5	愛知県中警察署	中警察署夏休み小中学生向け「インターネット犯罪被害防止キャンペーン」	看護学科	32	2019年8月22日
6	老人福祉施設オーネスト名城	施設秋祭りのサポート	看護学科	16	2019年9月15日
7	老人保健施設フジタ	施設秋祭りのサポート	看護学科	6	2019年9月29日

4. その他の連携

番号	連携先	内 容	所 属	氏 名	日 時
1	八百彦本店株式会社	オープンキャンパスのお弁当のメニュー開発	管理栄養学部	山田千佳子、高田尚美、学生8名	2019年6月、7月
2	愛知学院大学男子バレー部	愛知学院大学男子バレー部の食事サポート	管理栄養学科		2019年度
3	名古屋製菓専門学校	第45回技能五輪国際大会「ロシア連邦・カザン大会」洋菓子製造(川合黎奈選手用)パンフレット制作	デザイン学科	梶田 渉	2019年6月～
4	日進市福祉会館	子どもまつりーお兄さんお姉さんといっしょに遊ぼう	はっぴらいおん		2019年9月

IV. 資料

1. 名古屋学芸大学地域連携推進研究機構規程

(趣旨)

第1条 本規程は、名古屋学芸大学学則第 63 条の2第2項の規定に基づき、名古屋学芸大学地域連携推進研究機構(以下「機構」という。)の組織及び運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 機構は、名古屋学芸大学(以下「本学」という。)の、学長のリーダーシップの下、本学における地域連携推進の基本方針等を検討し、施策を推進することを目的とする。

(業務)

第3条 本機構は、前条に掲げる目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 地域連携推進に係る方針の策定に関すること
- 二 地域連携研究の実施及びその支援に関すること
- 三 学生ボランティア活動の支援に関すること
- 四 地域連携、地域貢献活動及び関連する教育・研究成果の広報に関すること
- 五 その他全学的な地域連携推進に関すること

(教職員)

第4条 機構に、次の教職員を置く。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 ボランティアコーディネーター
- 四 その他必要な教職員

2 機構に副機構長を置くことができる。

(機構長)

第5条 機構長は、本学の専任の教授のうちから選考する。

- 2 機構長は、機構の業務を掌理する。
- 3 機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。
- 4 機構長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(機構長の選考)

第6条 機構長の選考は、「名古屋学芸大学部館科長等選考規程」に基づき行う。

(副機構長)

第7条 副機構長を置く場合は、機構長が本学の専任の教職員のうちから選任する。

- 2 副機構長は、機構長を補佐し、機構の業務を行う。
- 3 副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。なお、年度途中で副機構長に選任された場合の任期は、機構長の任期の末日とする。

(運営委員会)

第8条 機構に運営委員会を置く。

(審議事項)

第9条 運営委員会は、第3条の業務に関わる重要事項を審議する。

(組織)

第10条 運営委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副学長(教育・研究)
- 三 副機構長
- 四 各研究科から選出された教員
- 五 各学部及び教養教育機構から選出された教員
- 六 健康・栄養研究所長
- 七 子どもケアセンター長
- 八 産官学協同研究センター長
- 九 事務局長
- 十 事務局部長
- 十一 その他学長が必要と認めた者

2 前項第四号から第九号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。なお、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議及び議事)

第11条 運営委員会は、機構長が招集し、その議長となる。ただし、機構長に事故あるときは、機構長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。

2 会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数によって決する。

(委員以外の者の出席)

第12条 運営委員会が必要と認めたときは、運営委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(部会)

第13条 運営委員会の下に部会を置くことができる。

2 部会の構成及び運営は、機構長が運営委員会に諮って決定する。

(事務)

第14条 機構の事務は、機構においてこれを担当する。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、機構の組織及び運営等に関し必要な事項は、運営委員会及び評議会の議を経て学長が定める。

附 則

- 1 この規程は、2018年10月3日から施行する。

2. 協定・連携一覧

No.	協定先機関	本学	協定等の名称	調印時期	内容/目的
1	日進市	大学	日進市との連携協力に関する協定	H22.2.1	双方の資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携し、地域社会の発展に寄与する。
2	日本赤十字愛知県支部	大学	日本赤十字愛知県支部と名古屋学芸大学との連携協力に関する協定	H26.11.13	双方の資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携し、地域社会の発展に寄与する。
3	三重県熊野市	大学	熊野市と名古屋学芸大学との連携協力に関する協定	H27.6.4	双方の資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携し、熊野市の地域課題に対して名古屋学芸大学の学術研究成果を活かした効果的な施策展開を図ること、地域社会の発展に寄与する。
4	愛知県公立高等学校校長会 家庭部会長 (愛知県立成章高校校長)	大学	高大連携に関する協定書	H27.7.1	相互に連携して、双方の保有する資源を活用し多様な事業を行うことにより、家庭に関する学科設置校及び名古屋学芸大学の教育の向上を図り、高校と大学の接続を円滑にする。
5	三重県菰野町	大学	菰野町と名古屋学芸大学との包括的連携に関する協定	H27.7.16	菰野町と名古屋学芸大学が連携して双方の保有する地域資源、知的資源及び人的資源を活用し、多様な分野で事業を行うことで、菰野町の発展と地域振興に資する。
6	名古屋商工会議所	大学	名古屋学芸大学と名古屋商工会議所との連携・協力に関する協定	H27.11.25	名古屋学芸大学の学生のキャリア教育に資するため、名古屋商工会議所の会員企業の販売戦略に役立つデザインについての理解を深めるために産学協同プロジェクトを実施するとともに、地域の経済・文化の発展に寄与する。
7	名城大学総合研究所	管理栄養学部	名城大学総合研究所と名古屋学芸大学管理栄養学部との学術研究交流に関する協定	H28.3.23	相互に所有する教育資源を両組織の研究活動全般に活用することで研究交流を促進するとともに両組織の学術研究及び教育の一層の充実を図る。
8	愛知学長懇話会 (愛知県内の単位互換事業 参加各大学)	大学	愛知学長懇話会による単位互換事業	H14.4.1	愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している大学に所属する学生が、他の大学で開講される様々な科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度。
9	愛西市長 愛西市農畜産業振興会	大学	愛西市及び愛西市農畜産業振興会と名古屋学芸大学との連携協定に関する協定	H29.1.20	三者がそれぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携協力し、愛西市と愛西市農畜産業振興会が取り組むべき愛西市における地域課題に対して、名古屋学芸大学の学術研究の成果を活かした効果的な施策展開を図ること、地域社会の発展に寄与することを目的とする。
10	名古屋市中央卸売市場本場 一般社団法人 名古屋市中央卸売市場協会	管理栄養学部	名古屋市中央卸売市場本場、一般社団法人名古屋市中央卸売市場協会及び名古屋学芸大学管理栄養学部との三者間の連携協定	H29.12.8	名古屋市中央卸売市場本場、一般社団法人名古屋市中央卸売市場協会の特色ある物的、人的な資源と本学の食に関する専門的な学術研究の成果を有効に活用し、中央卸売市場で取り扱われる生鮮食料品等及びそれらの食に関する施策展開を図ると共に相互の協働による食育活動を推進し、地域住民の健康及び食生活の向上に資する。
11	社会福祉法人中日新聞社会事業団	大学	名古屋学芸大学と社会福祉法人中日新聞社会事業団との連携協定	H29.12.15	双方の資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に連携し、地域社会の発展に寄与する。
12	医療法人尚豊会	管理栄養学部	名古屋学芸大学管理栄養学部と医療法人尚豊会との包括連携協定	H30.4.24	学生の教育(インターンシップ)や予防医学分野等の諸課題に対応した調査研究などをはじめ、それぞれの人的資源等の活用と人的交流を通じて、健康意識の向上と予防医療の啓発活動につなげることで地域社会へ貢献する。
13	医療法人大医会	大学	医療法人大医会と名古屋学芸大学との連携協定	H31.3.6	学生の教育(インターンシップ)や予防医学分野等の諸課題に対応した調査研究、健康診断利用者への栄養指導などをはじめ、それぞれの人的資源等の活用と人的交流を通じて、健康意識の向上と予防医療の啓発活動につなげることで地域社会へ貢献する。
14	東名古屋医師会医療介護総合研究センター	大学	名古屋学芸大学と東名古屋医師会医療介護総合研究センターとの連携に関する協定	R1.10.16	双方の人的資源や機能等の活用を図ることにより、幅広い分野で相互に連携協力し、教育・研究活動の推進及び地域社会における在宅医療・介護事業の発展に寄与する。

3. 2019 年度地域連携推進研究機構運営委員会委員名簿

職 名	氏 名	備 考
機構長	岸 本 満	1号委員
副学長(教育・研究)	山 本 一 良	2号委員
栄養科学研究科	塚 原 丘 美	4号委員
メディア造形研究科	尹 成 濟	〃
子どもケア研究科	福 井 義 浩	〃
管理栄養学部	(塚 原 丘 美)	5号委員
〃	井 澤 一 郎	〃
メディア造形学部	中 西 正 明	〃
〃	柿 沼 岳 志	〃
〃	鈴 木 康 明	〃
ヒューマンケア学部	(福 井 義 浩)	〃
看護学部	石 田 路 子	〃
教養教育機構	(山 本 一 良)	〃
健康・栄養研究所長	下 方 浩 史	6号委員
子どもケアセンター長	津 金 美智子	7号委員
産官学協同研究センター長	梶 田 渉	8号委員
事務局長	鈴 木 英	9号委員
事務局部長	松 浦 清 彦	10号委員
サービスラーニングセンター	石 原 貴 代	11号委員
地域連携推進研究機構 課長	北 條 泰 親	〃
産官学協同研究センター	皆 川 優 介	(オブザーバー)

4. 2019 年度地域連携推進研究機構運営委員会部会(ワーキンググループ)名簿

職 名	氏 名
機構長	岸 本 満
管理栄養学科	間 崎 剛
〃	松 下 英 二
映像メディア学科	柿 沼 岳 志
デザイン学科	冨 安 由 紀 子
ファッション造形学科	島 上 祐 樹
子どもケア学科	渡 辺 桜
〃	伊 藤 琴 恵
看護学科	小 幡 さ つ き
〃	大 野 美 香
産官学協同研究センター	皆 川 優 介

平成 30年度「復興・創生インターン(春期)」

復興・創生インターン

管理栄養学部 管理栄養学科 1年 鈴木 葵美

平成 30年度「復興・創生インターン(春期)」

復興・創生インターン

管理栄養学部 管理栄養学科 1年 鈴木 葵美

5. 活動内容

高齢者の方に「栄養を効果よくとってもらいたい。プロテインが良いのではないか」という社長さんの仮設の元、薬業に試験してもらいその良さを体感してもらおう。そして、それをもとに広めてもらうというプロジェクトを行った。そのため、社長さんの思いを伺うことから始めた。利用者の方とたくさんのお話をしたり、一緒にレクリエーションを行ったりする中で交流を深めた。

次に、実際にプロテインを試飲してくれる利用者の方を募集したが、なかなか集まらなかった。プロテインを試飲してくれる利用者の方であっても、「栄養を効果よくとってもらいたい。プロテインが良いのではないか」という仮設通りにうまくいかなかったため、なぜうまくいかなかったのか理由を明らかにし、今後の増量とした。

6. 参加理由と感動したこと

復興・創生インターンには、自分のコミュニケーション能力を向上させたい、自分を知る機会にしたいという2つの思いを持って参加しました。私は人見知りでなかなか自分の殻を破ることができませんでした。一つの壁を作って話してしまいます。また、いつも愛び身の姿勢で、誰かが話しかけてくれたり、指示してくれたら嬉しさを待ってしまいます。そのため、そんな自分を変えたいと思いで参加しました。

自分の心の壁がしっかりとおりていないため、どうしてこれをしたいの？というように深く聞かれると言葉に詰ってしまいました。そのような面でも自分を変えたいと思いました。

7. インターンを終えて・・・

自分は、いろんなアイデアを出したり、解決策を考えたりすることが好きだということに改めて分かりました。また、今、大学で学んでいることが全く身についていないので、もっと活用できるように学んでいこうと思いました。復興・創生インターンでは、いろんな人と出会い、いろんな話を聞くことができない機会になりました。

私はこの活動を通して、自分を知ることでよかったと思います。私は今までいろんなことに興味を持って、他人が持つ自分と違う考えを素直に受け取ったりと、自分とつながりとした軸がありませんでした。そんな自分を愛したい、自分の将来のためにも自分は何が好きで何を考えたいのかを考える機会にしたいと決意して参加しました。実際に、企業の問題解決を行って行く中で、私は「何が改善する必要があるのか、そのニーズに合わせて新たなものを作り出す」ということが好きだなということに気づきました。

また、今回プロジェクトでは、大学で学んだ栄養学について活用できる機会がありました。しかし、実際に活用することができず、今までテストのためだけの勉強になっていて、実際に活用する場にならな初期で、身につけていないことを実感しました。大学でのことも学びを深めていく必要性も改めて感じました。その他、プロジェクト以外でも全国各地の様々な大学・学部・学生と出会い、共同生活していく中で将来についてもたくさん話をしました。参加学生の間、いろんな視点からのもの見方や、それぞれのつながりとした自分の考えに刺激を受けました。



岩手県内の各観光地で行われる、岩手の復興支援イベント



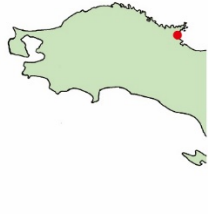
岩手県内の各観光地で行われる、岩手の復興支援イベント



岩手県内の各観光地で行われる、岩手の復興支援イベント

1. 活動場所

宮城県石巻市



2. 日程

- 2019年2月13日(水)～3月15日(金)
- 1週目：前合わせ・オリエンテーション・交流
 - 2週目：ヒアリング・チラシ作り・地域を知る・定例会
 - 3週目：モニター募集・中間研修・社長懇談・定例会・アンケート・集計
 - 4週目：報告書作成・最終プレゼンテーション・反省会



現地視察にて、被災地に出向く。



インターン先B社でのミーティング

活動先

ほんぷさん株式会社(岩手県、岩手市)「復興支援 岩手の復興を応援したい!」を

経営理念として、岩手県内各観光地へプロテインを販売している。ほんぷさんの復興センターは「食・農・住」のサービスを統合的に提供する体験型観光施設として、高齢者社会を支えるため、

①業：飲食サービス、外出先サービス(観光タクシー)

②業：観光サービス、外出先サービス(観光タクシー)

③業：訪問介護 訪問介護員センター、販売(宅配冷凍食品)グループ

④業：観光サービス、外出先サービス(観光タクシー)

⑤業：観光サービス、外出先サービス(観光タクシー)

⑥業：観光サービス、外出先サービス(観光タクシー)

⑦業：観光サービス、外出先サービス(観光タクシー)

⑧業：観光サービス、外出先サービス(観光タクシー)

⑨業：観光サービス、外出先サービス(観光タクシー)

⑩業：観光サービス、外出先サービス(観光タクシー)

3. 目的

高齢者の健康維持のためプロテインが良いのではないかと社長の仮設のもと、実際に入所者の高齢者の皆さんにプロテインを試飲してもらい、その良さを体感してもらおう。プロテインを高齢者に広めていこうというプロジェクトを行った。

4. 被災状況

石巻市は仙台に次ぐ宮城県第二の都市であった。震災後、人口が18,000人ほど減り、そのうち4,000人強の人が震災・関連死でなくなっている。石巻市の被害額は岩手県の被害額より大きく、被災地域が一番大きかった。現在は、海岸部は人が住むことができないように居住制限がかかっており、防潮堤が建設されるようだが、住民の間では賛否両論がある。(水防の標準規格での防潮堤よりも)

平成31年度「復興・創生インターン(夏期)」

復興・創生インターン

管理栄養学部 管理栄養学科 1年 田辺 紗弥香

平成31年度「復興・創生インターン(夏期)」

復興・創生インターン

管理栄養学部 管理栄養学科 1年 田辺 紗弥香

5. 活動体験の内容

「あらたなALATANA」をアクティビイトする」という目的のもとに「あらたなALATANA・いわき市を知る活動を通して、「あらたなALATANA」を生活の一部にする」というのを目標に活動しました。活動中の出会い、体験したこと・発見したこと・「あらたなALATANA」のそれぞれの事業所の強みを共有し、「あらたなALATANA」を会場に、「食事と運動」をテーマに健康イベントを企画・実施しました。



6. 参加理由と学んだことと感想

●参加理由
私は高齢社会に最先端する管理栄養士になりたいと思い、食事から疾病予防をし、健康寿命を延ばしていきたいと考えています。大学入学当初、病院で働く管理栄養士になりたいと思っていましたが、公衆衛生や管理栄養士概論の講義で多くの管理栄養士の仕事を知っていく内に将来の働き方を早見する必要があると思いました。現在の典型的な管理栄養士の働き方では、私が見出す管理栄養士になれないと思い、新たな働き方を模索し始めました。そんな時に、他業種の人たちが集まって一つの事業に取り組む働き方に出会いました。また、漠然としていて不安を抱えている時、同学部の先輩の「復興・創生インターン」の体験を聞き、頭で考えるだけでなく、実際に行動を起こして、体感することで将来の働き方のヒントを得られるのではないかと思います。「復興・創生インターン」に応募しました。インターン企業には、「ごちゃまぜ」というコンセプトに魅力を感じ、4つの事業所が集まっている施設である「あらたなALATANA」を選びました。

●学んだこと
・それぞれの信念を語り合い、応援し合うことで交流が生まれること
・自分では気づいていない自分の良さがあること

●感想
「あらたなALATANA」でインターンシップをさせて頂いて、多くのひととの出会い、多くのことを学ぶことができました。最初の2週間でいわき市の様々な場所を巡り、様々な人たちに会ってお話をさせて頂きました。特に印象に残っているのは、いわき市を盛り上げたいと活動している方々が集まるプッシュ交流会と浜納納湯会、社会人の方々と意見を共有したり、これからの課題について議論することができたことです。自分を鼓舞することが苦手だったので、自分が初対面の社会人の方々に自分の考えをお話することができたことにとっても驚きました。その際に新しい働き方を教えて頂いたり、食や字への教育の場についてなどのお話を聞き、将来の働き方のヒントを得ることができました。「あらたなALATANA」に集まる4つの事業所やいわき・双葉郡で出会い、互いの活動を応援し合うことで、交流が生まれていきました。実際に「あらたなALATANA」の皆さん、いわき・双葉郡内部ブロックのインターン生、いわき・双葉郡で出会った皆さんとのつながりによって、イベントを企画・開催することができ、充実した1ヶ月になりました。このインターンシップで私の信念に共感してくださる方が、これから私の活動・成長を応援してくださる方に出会えました。インターンで得たつながり・学び・気づきを大切にし、これからの学校生活・進路選択・自主活動に生かしていきたいと思えます。

1. 活動場所

【福島県】いわき・双葉郡南部：いわき市



活動先

あらたな ALATANA

ソーシャルインクルージョンスペース「あらたなALATANA」は、ヘルスアップベンチャーの株式会社「HealthUpOne」・復興の強さを伝える、自立支援サービスを提供するNPO法人「SOCIAL DESIGNWORKS」の「SOCIAL SQUARE Sports」・いつでも、誰でも、無料で参加でき、つながる、コミュニケーション講座「みんなの活動手いっしょ」(E. Mitchen)からなる、双葉郡・双葉町・いわき市で活動している、民間・ヘルスケア「加わい」(女性)「わいきともり」(男)、現在の社会で求められる経験や分野、ヒントが、すべてこの一つの場所に。

●プロジェクト概要

テーマ：「あらたなALATANA」をアクティビイトするための企画を検討＆「業績」・「絶対」・「アクション」に落としこむ！

現在の社会的課題や復興の場には必要とされている活動しつつ、これからのスタンダードになるような形で取り組める事業の模索が目的です。あらたなALATANA、私たちが現場にもっていきまわす、もっとおもしろく、盛り上げていきたいと思います(今の時代の流れ・急激な変化・生き残りを争う競争が激しくなっています)



3. 目的

究極の医療・福祉系ごちゃまぜ複合施設「あらたなALATANA」をアクティビイトすること

2. 日程

2019年8月20日(火)～9月13日(金)

- 1 週目：事前研修、「あらたなALATANA」を知るために各事業所の見学・体験、いわき市を知るために各施設を訪問、プッシュ交流会、1週次面談、いわきツアー
- 2 週目：いわきを知るために各地を訪問、中間研修、浜納納湯会、いこくフェス2019
- 3 週目：企業立案、準備、双葉部ツアー
- 4 週目：イベント開催、資料作成、成果発表会

4. 被災・復興状況

いわき・双葉郡ブロックと郡山・原町ブロックのインターン生は、インターンシップ3週目に双葉部ツアーに行きました。双葉郡は、広野町・楡岡町・常田町・川内町・大熊町・双葉町・浪江町に行きました。その中の楡岡町・常田町・大熊町・浪江町は「CANVAS」を見学し、お話を伺いました。楡岡町では、「みんなの交流会館からはCANVAS」を見学し、お話を伺いました。この施設は、余り部のワークショップの中で市民の思いをまとり上げられ、コンパクトタウン「家(とま)」であるタウンならば」に2018年7月30日に開館しました。施設名は、これから多くの人が主体的にこの施設に関わり、みんなで動いていく＝真つ日本キャンペーンに響いていくような施設であってほしいという思いから名付けられ、CNを大文字にするこで、この施設の可能性や、使う人の「can=できる」をかなえる場所にしたという思いを込めたそうです。楡岡町では、「ふたばいふふふ」「真つ日本開館資料館」を訪れ、楡岡町の辺り(び)を歩み、楡岡を歩きました。「ふたばいふふふ」は、双葉郡の情報館スペースをとして2018年11月5日にオープンしました。双葉郡8町村の現状を共有し、広く伝えるために民間団体の双葉未来会議が運営しています。カフェが隣接されていて、パネル展示やライブスペースなどがあります。ふたばの足跡を記録する・伝える、学ぶ場、そして繋がる場でもあります。津波によってひび割れたロープ、カードレール、分析された楡岡水、津波によってひび割れたカードレール、フレコンバンの山、撤去されずにそのままの船など、原簿帳によって新たに楡岡作業が積み重ねられてきたことが、思いを待って未来の双葉郡のために役に立っている方々に出会えました。

忘れない、 東日本大震災

応援させてください -心の復興-

被災者の皆様に喜んで頂ける何かをしたい!震災発生当時から学内で声が上がっていました。管理栄養士を養成する学科があることから、食事に關するボランティアとして「仮設住宅の一室で食事を作って被災者に食べて頂く」とのプロジェクトが立ち上がり、2014年2月から3年間で春休みと夏休みを利用して157名の学生が参加しました。おかげさまで被災者の皆様に喜んで頂けたものと思っております。それと同時に現地を訪れた学生は間違いなく人間的に成長することができました。しかし、被災者が高台に家を新築され移動されたことから、2017年3月での活動は終了せざるを得ませんでした。

そのような折、これまでお付き合いを頂いていた宮城県南三陸町の水産会社の本部長様から、「どこの団体もそうだと思うが、以前のようなコミュニティが震災後失われてしまい、年寄りや家に閉じこもっている。若い学生さんの力で、昔のような和気藟々としたコミュニティに長したいのだが」とのお話を頂きました。大学にとっては、学生の学びとなる絶好のチャンス。是非、これまでものたくさんの学生を引率し、地域コミュニティづくりの支援をさせて頂きたい、学生の人間力を向上させたい、そう考えました。

本格的な活動は次回からですが、とりあえず、今回その視察を兼ねて、4名の学生と3名の教員が現地に行って調査をしてまいりました。ここに示すパネルはその報告です。

名古屋学芸大学サービスマーケティングセンター

平成29年夏期 視察

宮城県南三陸町 志津川地区

ヒューマンケア学部 3年 新美真子 / 管理栄養学部 1年 佐藤理恵子

1 視察目的と場所

目的：被災地でのコミュニティづくり支援のための情報収集
場所：宮城県本吉郡南三陸町志津川および清水団地

2 日程

1日目 ホームステイ先にご挨拶、志津川中学校・仮設住宅・さんざん商店街・防災庁舎跡等を視察
2日目 集会所で団地の方とお話し合い、各戸を訪問し家族構成を調査
3日目 ホームステイ先にご挨拶、清水団地を出発し、石巻市・女川町視察

3 南三陸町の被災状況と復興状況

南三陸町は、宮城県の北東部に位置し、仙台駅から車でおよそ1時間半。震災前の人口は約13,000人であり、豊かな自然の恵みを守り、自然を活かした産業や暮らしがあった。

震災による死者620人、行方不明者211人。全壊した住宅は3,143戸。市街地が川や海に近かったため(①)津波による家屋の被害が多かった。現在は急ピッチで復旧工事が行われており、以前の面影はあまりない(②)。



1 ① 津波前(上段)は被災直後(下段)の様子。近くに海を囲むが、市街地の規模は広く、志津川西の津波は一気に市街地方向に押し寄せた。



2 ② 2017年9月の様子。組み立て工事が急ピッチで進み、津波が覆った川の上手の荒さは防災庁舎③の2階の高さ程度に回復する。



3 ③ 津波の女性避難所(右)と仮設住宅(左)の様子。近くに海を囲むが、市街地の規模は広く、志津川西の津波は一気に市街地方向に押し寄せた。



4 ④ 防災庁舎の近くには建設された南三陸さんざん商店街。復興のシンボルが形跡存在で、毎日たくさんの客でにぎわっている(2017年9月撮影)。

宮城県南三陸町 石巻市・女川町

ヒューマンケア学部 3年 中川優菜 / 管理栄養学部 1年 三浦愛里

1 視察目的と場所

目的：東日本大震災での被災状況や復興状況を、視察を通して学び、課題を見つけ、解決策を考える。
場所：宮城県南三陸町志津川(清水団地)、石巻市(旧大川小学校、門脇小学校)、女川町(地域医療センター)

2 日程

- 一日目 南三陸町防災庁舎跡・さんさん商店街等の視察、清水団地ホームステイ先と区長様にご挨拶
- 二日目 団地集会所で住民との意見交換会、家族構成と今後の活動を調査するため各戸にご挨拶
- 三日目 視察(石巻市内：(旧)大川小学校・門脇小学校、女川町：地域医療センター)

3 視察地域の被災状況、復興状況

石巻市：死者3552名、行方不明者425名、22,357棟の家屋が全壊、31,385棟が半壊。
海沿いにある水産加工施設は200棟全て全壊。

河口から約4kmの場所にある(旧)大川小学校では、家庭に待機していた児童76人のうち69人、教師11人のうち10人が亡くなり、今も3名の行方不明である。当時の大川小学校校舎(①)はがれが激さざれ見学可能である。校庭に当時の写真が掲示されており(②)、津波の悲惨さを肌で感じることが出来る。石巻港から約500m内陸にある門脇小学校では、高台にある日和山公園(③)へ避難し全員無事であったが、校舎は津波と火災の複合被災している(④、⑤)。石巻市内では、海岸沿いの住居建設は制限されているが、津波被害にあった区域ですべて工場、水産加工会社や魚市場(⑥)が建設され稼働している。



① 津波により倒壊したコンクリートの壁の下。壁に投
げられた破片はそのまま残る。壁は津波の
威力、崩壊の状況が分かる。壁の破片は津波の
威力、崩壊の状況が分かる。



④ 石巻市立門脇小学校正面。津波1m程度で、かつ津
波から500mも離れたところに、津波被害を受けた
建物は一人もいなかった。日曜からの視察が月を
経ち、この状態の復旧が進んでいる。

⑤ 門脇小学校の正面。1階は津波で壊滅的な被害
を受けた。全壊した建物の復旧が進んでいる。
この状態の復旧が進んでいる。

⑥ 水産加工施設。石巻市で唯一の水産加工施設
である。全壊した建物の復旧が進んでいる。
この状態の復旧が進んでいる。

4 視察目的と場所

清水団地は高台に新設された全47戸の団地であり、まだ建設されていない宅地も散在している(⑥)。
まずコミュニケーションづくりに必要な基礎的情報として、各家庭の家族構成を調査させた(⑦~⑩)。
その結果、全住民数は約130名で、中高年がおよそ7割を占める団地でした。また、団地内の集会所で、
清水団地の方々とお話やイベントへの意見を聞かせていただいた(⑪)。さらに
被災者の方々と一緒に震災前後のお話やイベントへの意見を聞かせていただいた(⑫)。さらに
被災者の方々と一緒に震災前後のお話やイベントへの意見を聞かせていただいた(⑬)。さらに
被災者の方々と一緒に震災前後のお話やイベントへの意見を聞かせていただいた(⑭)。



5 感想

- i) 今までテレビなどのメディアを通してしか被災地の情報を得ることができなかったが、今回、現在の被災地の状況を自分の目で見ることで、震災について考え直すきっかけとなった。
- ii) 普段の生活では近所同士の付き合いをあまり深く考えていなかったが、清水団地の人たちの話を聞いて活動させてもらったことが、私たちの地元での生活でも考え直す必要があると思った。
- iii) ホームステイをさせていただき、人と関わりコミュニケーションを取ることは大変だが時間がたつと大変さも楽しさが勝っていた。
- iv) 今後この活動を通じて、清水団地の方々ともっと関わりを深め、皆様に喜んで頂ける支援を考えていきたい。

※参考サイト：南三陸町役場HP <http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/>

6. 視察地域の被災・復興状況

● 被災地の概要

前年編：3月9日(金)午後／後半編：3月10日(土)午前

津波に襲われるように、土地をかき上げるために壊れた建物の土の間に、新しい建物が立ち並ぶようになっていた。被災の津波で被災した43人が犠牲になった南三陸町の被災復興行政。防災行政の復興は、2016年4月1日から立ち入り禁止となった。(2018年3月末まで2年間かけて、町が震災復興記念公園の整備をするため)

● 石巻市立大川小学校

石巻市は2016年3月、津波の川原が残る校舎を「震災遺構」として保存することを決定したが、遺構の前では「解体」と「解体」で意見が分かれた。大川小学校や児童の目もあつた釜谷地区一帯は震災後、居住できない地域となった。

● 女川町

地震のおよそ30分後、20mもの大津波が女川町を襲い、またたく間に市街地の大部分をのみ込んだ。自然の重鎮は、なすすべもなく、数回にわたる津波の襲撃の後、家が残った町の姿がそこにあった。それから7年、今では、女川町復興を行うまでになった。2015年3月に震災後の一帯列車を踏んだ女川町では初期対応も行われている。女川町内 28 地区 (金 859 戸) の災害公営住宅事業も完了した。

● 門脇小学校

被災した門脇小学校の校舎は確保保存することになった。門脇小学校は、3 階建ての断崖線を校舎前に配直し、津波必死による内部の被災状況を見学できるように整備されている。2019 年度中に着工し、2020 年3月までの完成が見込んでいる。

● 日和山公園

地震発生後、多くの人が日和山公園に避難し、海をみていた。大きな津波は何度も押し寄せ、日和山橋をほとんど覆った。高い津波だった。橋の上で動けなくなった車の多くが犠牲になった。津波は少しずつ建物が並び始めていた。

● 女川町地域医療センター

高台にある1階部分まで津波が押し寄せた。柱には「間隔より195m」の表示が、津波到達の記録として残されている。被災者約70人ももともと約700人が病院に避難していた。1階は津波で破壊され、医療機器やカルテ、薬品等が流されたが医療活動は継続された。



写真は、かき上げられた土の中から、2階建ての建物の残骸が確認された。



写真は津波の被害を受けた建物。津波の被害は深刻だった。



津波の被害を受けた建物。津波の被害は深刻だった。



津波の被害を受けた建物。津波の被害は深刻だった。



津波の被害を受けた建物。津波の被害は深刻だった。



津波の被害を受けた建物。津波の被害は深刻だった。

5. 活動地域(南三陸町)の復興状況

現在の南三陸町の様子については、災害復旧の進捗は平成26年3月に事業を終了している。河川対策や交通網は未だ着手できていない箇所もあるが、町や県の管理する道路は復旧が完了している。原則として、住宅や公共施設を高い場所に設置し、住民の避難に備えて、町独自の補助事業で整備するなど各種補助がなされている。平成29年1月10日に志津川地区中央団地の完成し、防災集団移転促進事業が完了し、3月に災害公営住宅(中央住宅)も完成し、災害公営住宅整備事業が完了した。

南三陸町では、漁業基盤強化補助事業の推進も予定しており、災害に強い町づくりを進めている。学校や病院などの公共施設も増やしていく。また、避難所を確保している。町独自の補助事業で整備するようになっている。住民の避難に備えて、町独自の補助事業で整備するなど各種補助がなされている。平成29年1月10日に志津川地区中央団地の完成し、防災集団移転促進事業が完了し、3月に災害公営住宅(中央住宅)も完成し、災害公営住宅整備事業が完了した。

南三陸町は、大きな被害を受けたが、町の補助、町民のみなさんの、立て直そうという強い思いから、町民は残るもの復興が進んでいる。東日本大震災の復興事業で、地盤の安定している高台に清水団地が作られ、町の約半が移転した。

清水団地は新築の現代的な家が見えているが、誰も居なくて寂しい感じがする。新しい家が建てられているが、誰も居なくて寂しい感じがする。新しい家が建てられているが、誰も居なくて寂しい感じがする。



新しい家が建てられている。新しい家が建てられているが、誰も居なくて寂しい感じがする。



新しい家が建てられている。新しい家が建てられているが、誰も居なくて寂しい感じがする。



新しい家が建てられている。新しい家が建てられているが、誰も居なくて寂しい感じがする。



新しい家が建てられている。新しい家が建てられているが、誰も居なくて寂しい感じがする。

7. 活動・体験の内容

3月11日(日)

○ウォークラリー、作業体験

早朝、ホストファミリーが仕事を始める作業場に連れて行ってもらった。わかめを風船で加工作業を見せてもらったが、全て手作りで驚いた。ウォークラリーでは、20人ほどの参加者に、団地のコースと近くの神社まで行くコースで3グループに分かれてもらった。学生も分かれて一緒に歩いた。次のイベントである餅つきから「餅クイズ」、各団地のことを知ってもらおう「名産クイズ」などに参加しながらウォークラリーを行った。東原より団地に行ったことのない方が多かったため「名産クイズ」は難しかった。総合かき揚げやじゃんけんもした。見たことが無い「チヨキ」、カウトラリーを遊ぶように皆さんの笑顔が嬉しくていきなり帰った。

○餅つき、島のアレルギー

皆さんに餅の茹め方を教わりながらみんなで「餅つき」をした。餅に染める味噌や、ずんだを混ぜ、汁物として朝食用の雑穀を作った。味噌と汁物は味噌、ずんだとずんば東北の郷土料理として、味噌と粟米の食べ方の違いを楽しくもらおうと思った。おいしいと言ってもらって嬉しかった。

お餅を食べながら、清水団地の皆さんが震災前に楽しんでいたという「島のアレルギー」を聞いた。事前に調べて大学で練習した踊りは、実際のものと違っていたらしく、皆さんの島のアレルギーを聞いた。みんな一緒に楽しく踊ることができた。



11日午後、皆さんの作った餅つきの様子。この日、餅つきがメインの活動で、団地の皆さんも餅つき体験ができていたので、一緒にお餅つきを体験した。

3月12日(月)

朝食後に集会所の掃除をしたあと、再びホームステイ先に寄り、お茶っこをしながら会話をしました。最終日に向けて、毎日の会話がとても楽しかったことに気づいた。朝飯の気持ちを書いた手紙をお渡しして家を別れた。それ以外のホストファミリーが集会所で送迎してくださり、お別れのときはとても寂しかった。

東北ボランティアで、震災当時の様子や復興状況が分かるのはもちろんのこと、清水団地の皆さんの生活、心の復興などに触れることができた。そして、皆さんから感謝状や体験を書くことができた。災害はいつどこで起こってもおかしくはない。これまでは被災地について深く考えたことはなかったが、自然災害への対策や避難訓練をするべきだとあらためて思った。

震災体験を覚えている皆さんに、私たちの大学元気をもらい、生きることへの感謝を学ばせていただいた。今後でもできることがあれば進んで行動したいと思う。



7. 活動・体験の内容

3月9日(金)

●名古屋から南三陸町への移動

名古屋から名古屋まで、夜行バスや新幹線移動、山形から高速バスでBRT志津川駅まで、そこから志津川清水団地へ、移動開始はともかく、清水団地は思っていたよりも狭く、直立している感じがした。

○被災地体験、復興診断の準備、お楽しみ

2班に分かれ、被災地体験とイベントの準備。
1 班は、被害の大きかった大川小学校、玄川町地域センター、石巻市(日山公園、門前小学校、復興記念公園など)へ、大川小学校の裏(日山公園)下は津波で倒れ、屋上のスローカーが壊れてしまっている。公団では震災前後の景色を写真と比べて紹介した。復興記念公園や日山公園を見て、被災地の大きさを痛感し、復興の様子も知ることもできた。

もう一方の班は、イベント「復興診断」の準備を行った。集会所に案内を指示し、お茶を飲み、復興診断で使う骨密度計や体組成を測る機械(インポスター)を準備した。またウォークラリーコースの下見をした。コース内では、高台の神社や倒れている石碑を見て、改めて津波の大きさを痛感した。団地内一軒一軒をまわり、お茶を飲み、夕食時には、集会所に団地のホストファミリーと学生、引率教員が揃って会食した。自己紹介の後、各自のホストファミリーと仲良く話して会話をした。初めての顔合わせで緊張したが、食事をしながら話すことで緊張も薄らぎ、楽しい時間になった。

3月10日(土)

○被災地体験、復興診断の準備、ウォークラリー下見、買い物出し
行内内容を交代して活動。買い物出しは被災地体験、もう一班は買い物出しイベントの準備をした。買い物出しの時、高台にある志津川中学校から南三陸町全体の様子を見た。海から続く川が眼下にあり、町全体が埋没している様子が見られた。今も使われているところもあり、復興のためだけのもので感じた。今も使われているところもあり、復興の途中なんだと痛感した。

○復興診断

企画イベントの一つ「復興診断」を行った。骨密度と体組成を測定し、結果表用紙保管用のファイルを用意した。参加者は結果表を見合わせて「これから運動するように意識してみようかな。」と、楽しそうに話を交わっていた。わっておきたと驚いて、翌日のイベント準備をした。
終了後、ホームステイ先へ帰った。夕食は海の幸が多く、初めて食べたものもあった。普段口にしていないという食材も、新鮮でとてもおいしかった。被災地の様子や団地での生活、この地の歴史や食文化などたくさんのお話を聞くことができた。



集会所に集まり、お茶を飲みながら、お楽しみ会を行いました。

復興診断で、お茶を飲みながらお楽しみ会を行いました。



また、団地の様子も写真で撮りながら、お楽しみ会を行いました。

復興診断の準備中。被災地体験の様子も写真で撮りながら、お楽しみ会を行いました。

6. 活動・体験の内容

太巻づくり大会

切ったものを前後が柄になる、餅が太巻きを作った。図柄はアンパンマン、ミッキーマウス、ハート、花の4種類を準備した。同じ図柄でも、この餅の裏や巻き方でそれぞれ違う断面になり、とても楽しんでもらうことが出来た。出来上がった太巻きは、唐揚げや明神漬和えとバツクにつめ、冷やかしめ汁と一緒に提供した。太巻き調理中は、どのテーブルからも楽しそうな話し声が聞こえた。イベントの目的を達成できたようでもあった。太巻きの作りかた、しゃべりにご飯がくっつくかなど、私たちが教えてもらったこともあった。



夏祭り

スライダリがヨーロッパを計画していたが、雨のため室内でクイズや写真撮影をした。香川県や愛知県にまつわるクイズでは、景品として名古屋のお菓子を配布した。名古屋名物の小倉トースト、天むすやシヤチホコの額はめいれりを制作していたので、八ヶ岳を利用しての撮影も楽しんで頂いた。写真はコルカポードに切り集約後に飾った。最後は清水団地のみなさんに教えていただいたきながら、全員で「夏のブルー」を歌った。一緒に歌になつて語るのはとても楽しく、皆さんも私達も盛り上がった企画となった。



6. 活動・体験の内容

震災によって以前の地域のつながりが壊れてしまっている津村団地の地域コミュニティをつくるために、お年寄りの方たちが楽しめるような4つのイベントを行った。自分の体のことを知ってもらうことや美味しいものを食べてもらうことを通して、清水団地のみなさんが1つの場所に集まって楽しんでもらうことを一つの目的とした。

健康イベント（血圧、握力、筋力の測定や塩分調査など）

健康イベントの健康シートを一人ずつ作成し、年齢ごとの平均値の一覧表を添付することで、健康度を自分で判断できるように工夫した。

塩分調査

3種類の塩分濃度の味噌汁を飲んでもらい、どれが自分の家族の味に近いか選択してもらった後、その味噌汁の塩分量を示した。チェックシートを見ながら、食生活をもとに改めていくと良いか、学生が日頃の学びをもとに説明した。1番高い濃度を家で飲んでいると答える方が多く、だしをうまく利用して濃度を調整されていると感じた。

握力測定

男女を問わずほとんどの方が、握力・脚の筋力ともに平均値より高い結果だった。

工作

好きな材料でデザインを考え、接着剤やペンで面める工作を行った。手先の器用な方が多く、小さな貝殻にビーズやシーグラス、クリスタルをたくさん使っていて、とてもカラフルでかわいいらしい個性あふれる作品が出来た。学生も一緒に作りながら交流を深めたが、避難生活で作られた手工作品を見せたいなど、当時の生活ぶりを聞くことにもつながった。



6. 活動体験の内容

名古屋版の体験モーニングサーブ、味噌漬込みうどん、天むすならど屋敷会

名古屋版の体験

この日は名古屋版をテーマに、朝食と昼食を提供した。モーニングサーブとして食パン、ゆで卵、コーヒーマーまたはジュース、コメダ製菓の豆を添えた。コーヒーマーなど飲みながらしゃべりながら作りながら時間を過ごしていただいた。朝早くから参加していただく方々には、名古屋文化のモーニングサーブを楽しんでもらいたい。そしてお昼は味噌漬込みうどんと天むすを一緒に作って食べた。最初

味噌の小まを準備し、うどん生地からうどんを作った。清水団地の方々も手際よく包丁を動かしてきてくださった。また、慣れず手つきで味噌を伸ばす姿を見ていたというの間に味噌を伸ばすのが立派な手つきに変わる側になっていた。天むすはみんなで作って、きれいに盛り出すように作るのを指導しながら楽しく作っていただくという声があつた。味噌漬込みうどんも天むすも事前に説明していたが、清水団地の方々の手際がよく、とてもスムーズに仕上がった。最後に、楽しい雰囲気でも名古屋版作りができ、また、お話しが弾んだ。おいしい雰囲気になった。満足していただけるとのこと。お話しが弾んだ。おいしい雰囲気になった。

お漬物と餅作り（昼のメニュー）

楽しくみんなで昼食を食べた後は抽選会を行った。名古屋土産であるしるこサンド、たこやんなどプレゼントした。そして、今回のイベントの集大成として清水団地に伝わる「昼のメニュー」を披露した。事前には餅作りを覚えてお楽しみ手作りして、家から清水団地の方々や先住の方々も参加は私たちがだけで作ったが、途中から清水団地の方々や先住の方々も参加してみんなで餅作り、さらに餅作り方の指導もいただいた。笑顔が絶えることなく、言葉に合わせながら楽しんで作った。イベントのよい雰囲気になった。



6. 活動体験の内容

以前の地域のつながりが薄れてしまっている清水団地の心の復興を目指した。地域コミュニティづくり・健康づくりのためにお年寄りや子どもが楽しめるようなイベントを行った。また、味噌漬込みうどんなど、名古屋版を多くの人に知ってもらってからおもうと考えた。



健康イベント(体験メニュー、お漬物作りなど)

医師集団でも行われている「タ」力」を何回練習できるかで食べ物を飲み込む力がわかる。同じ言葉を全力で言い続けることが大変そうだったが、呼吸がムチャムチャはガムを噛み続ける色が変わり、その変化によって増えたり減ったり。5段階で評価し、大きい数字は呼吸力があると判断される。3以上の人が多く、呼吸力を維持できている人が多いとわかった。これも、目標や達成などしっかりと目標なければならぬ。食生活によるものだと思われ。

骨を構成するカルシウムなどのミネラル成分がどのくらい含まれているかを測定して、骨の健康を知ることが出来る。年齢の平均より骨密度が高い人が多く、ほとんどの人が骨粗鬆症のリスクはなかった。これも魚介類や海藻類などもしっかり摂取されている食生活と日頃の運動による効果だと考えられる。



名古屋学芸大学 地域連携推進研究機構年報 第1号

2020年3月発行

発行 名古屋学芸大学 地域連携推進研究機構
〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57
TEL 0561-75-2270

印刷 鬼頭印刷株式会社
〒456-0073 愛知県名古屋市熱田区千代田町 3-22
TEL 052-681-1701